

2025年度

大学院生
(前期課程・後期課程)
のための手引き

同志社大学大学院

スポーツ健康科学研究科

スポーツ健康科学専攻

2025年度

スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻
大学院生(前期課程)のための手引き

目 次

M-1. 人材養成目的および学位授与方針	1
M-2. 修了および学位取得の条件	2
M-3. 博士課程(前期)修了までのスケジュール	3
M-4. 2025年度スケジュールについて	4
M-5. 各種研究計画進捗状況発表会について	5
M-6. 学位論文について	7
M-7. 研究遂行上の留意事項	12
M-8. 授業科目履修上の注意	13
M-9. 博士課程(前期)履修計画の概要	14
博士課程(前期課程)アセスメント・ポリシー	15

スポーツ健康科学研究科博士課程(前期)においては、学位論文の執筆・完成が最終目標となる。各指導教員の研究指導のもとに各自の研究を精力的に進めていくとともに、授業や中間発表会などを十分に活用し、意義深い学位論文の執筆に結び付けていただきたい。

この「大学院生(前期課程)のための手引き」では、おもに学位取得条件や学位申請までの手順などにふれ、課程修了までの指針を示す。

M-1. 人材養成目的および学位授与方針

スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻博士課程(前期)の「人材養成目的」および「学位授与方針」を以下の通り定める。

■人材養成目的

スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻博士課程(前期)は、健康とスポーツに対する現代的関心と欲求の増大に応じて、「健康」と「スポーツ」が有機的に融合したスポーツ健康科学を体系的に習得し、その成果を大学・研究所、医療・健康関連産業、民間企業や地方自治体等において、的確かつ柔軟に、現実に対応できる能力を有する高度専門職業人、および広範囲な研究能力の涵養と新たな学問領域の開拓が期待できる卓越した研究者を目指す人材の養成を目的とする。

■ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

【知識・技能】 健康とスポーツ活動及びそれらを取り巻く社会環境に関する諸問題を、スポーツ健康科学の学術的知見に基づき総合的に理解し、自然科学的研究法または人文科学的研究法を適切に高度に運用できる(知識・技能)。

【思考力・判断力・表現力】 スポーツを通じた「健康づくり」や「生きがいづくり」に寄与・貢献し、スポーツ・健康教育の制度やその社会的環境をより整備、発展させることができる(思考力・判断力・表現力)。

【主体性・多様性・協働性】 健康とスポーツ活動及びそれらを取り巻く社会環境に関する諸問題を様々な視点から科学的に解明し、新たな当該研究分野を開拓できる。

M-2. 修了および学位取得の条件

前期課程の修了要件および修士学位取得要件は以下のとおりである。

学位: 修士(スポーツ健康科学)

修了要件:以下の(1)~(6)の要件を全て満たさなければならない。

- (1)本博士課程(前期課程)に2年以上在学していること。
- (2)いずれかの分野の「〇〇研究 I ~IV」(計8単位)を履修していること。※1)
- (3)B群科目、C群科目から、修士論文提出者は22単位以上、課題研究論文提出者は30単位以上を修得していること。
(ただしC群は指導教員の許可のもと6単位まで履修可としている)
- (4)修士論文、課題研究論文のいずれかを提出し、論文最終試験に合格すること。
- (5)【2024年度以降生のみ】修了判定までに、国内(国際も可)学会(含:支部会、研究会)で、1回以上発表する。
- (6)研究に必要な1カ国以上の外国語に通じていること。

努力義務(修了要件ではない):国内(国際も可)学術誌に、1篇以上投稿する。

※1)自身の指導教員が担当する「健康科学研究 I」等の〇〇研究を履修登録すること。

※2)修士論文または課題研究論文を提出する予定の年度には、必ず「論文」を履修登録すること。

また、修了要件に定められている「学位論文」最終試験にあたり、修士学位論文提出要件を以下の通り定める。

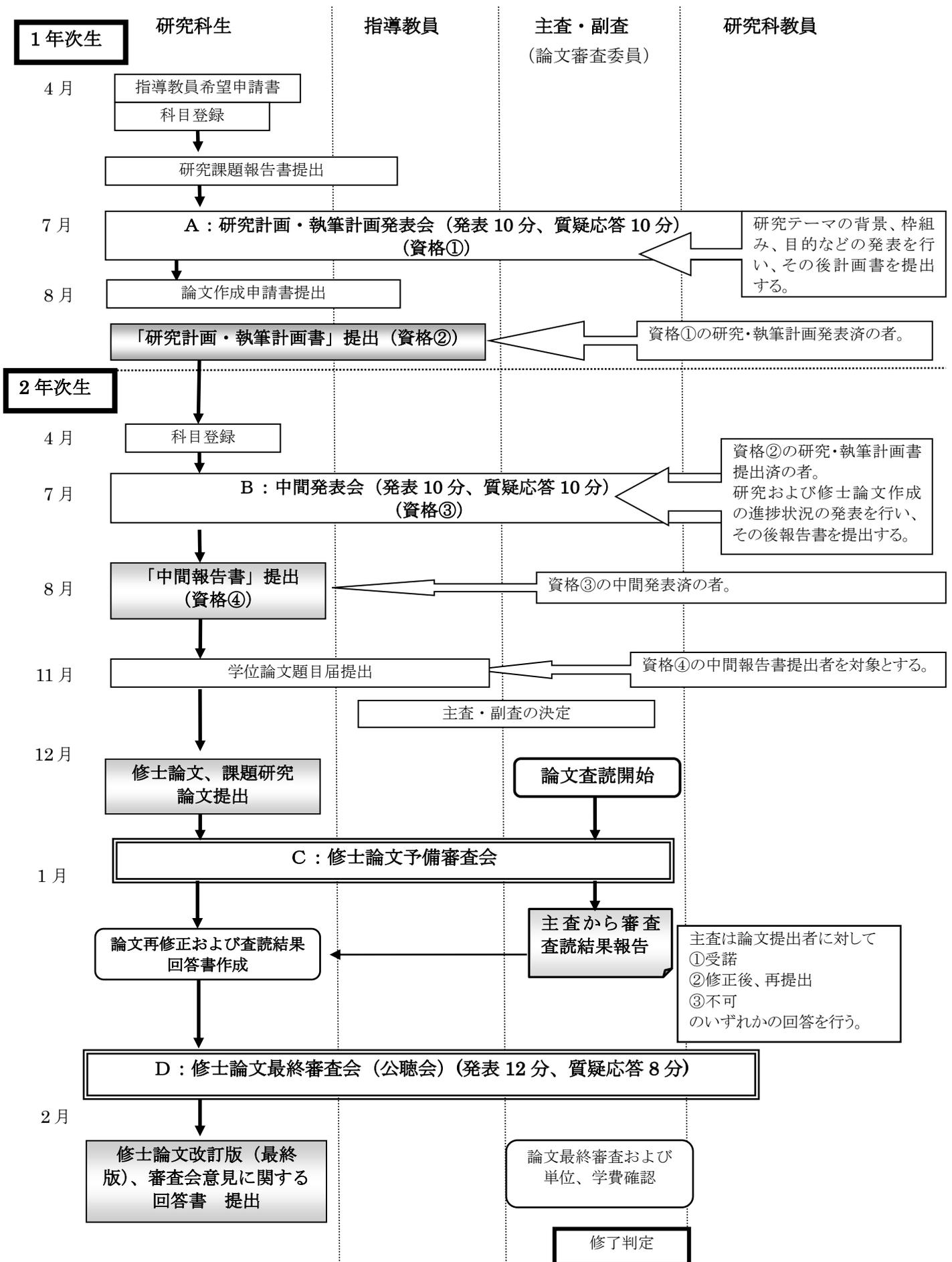
修士学位論文提出要件

以下の(1)、(2)の要件を全て満たさなければならない。

- (1) その年度に修了見込で、「論文」を科目登録済の者。
- (2) 「中間報告書」提出済の者。

※春学期修了を希望する者は、毎年度4月初旬までに指導教員に申し出て相談すること。

M-3. 博士課程(前期)修了までのスケジュール(予定)



M-4. 2025年度スケジュールについて(予定)

課程修了までのスケジュールは以下のとおりである。なお、期日の過ぎた提出物は一切受け付けない。

学年	日時	内容	様式	提出先・実施場所等
1 年 次	4/1(火)	・入学式(研究指導教員希望申請書提出)	様式 1	
	4/11(金)	・研究課題報告書提出締切日(仮題でも可)	様式 2	教務 C
	7/26(土)	・研究計画・執筆計画発表会 (発表 10 分、質疑応答 10 分)	A	京田辺 キャンパス
	8/29(金) 17:00 厳守	・論文作成申請書提出締切日 (修士論文または課題研究論文の作成申請) ・「研究計画・執筆計画書」提出締切日	様式 4	教務 C 教務 C
2 年 次	7/26(土)	・中間発表会 (発表 10 分、質疑応答 10 分)	B	京田辺 キャンパス
	8/29(金) 17:00 厳守	・「中間報告書」提出締切日		教務 C
	10/31(金) 17:00 厳守	・学位論文題目届提出締切日 (これ以降は原則題目変更不可)	様式 5	教務 C
	11 月 19(水)	・主査・副査の決定		
	12/19(金) 17:00 厳守	・修士論文、課題研究論文提出締切日		教務 C
	12 月下旬～ 1 月中旬	・論文審査委員による論文査読		
	12 月下旬～ 1 月中旬	・修士論文予備審査会 (主査・副査にて実施)	C	
	～1/14(水)	・主査から大学院生へ審査査読結果報告		
	1/24(土)	・修士論文最終審査会(公聴会) (有資格者:予備審査会「可」の者のみ) (発表 12 分、質疑応答 8 分) ※最終審査会までに審査会意見に関する回答 書(仮)を審査委員に配付すること。	D	京田辺 キャンパス
	2/12(木) 17:00 厳守	・論文改訂版(最終版) 提出締切日 ・審査会意見に関する回答書提出締切日 ※最終審査会での指摘事項等を修正し、審査 委員の確認後に提出すること。 ・学位論文題目変更届提出締切日(対象者のみ)		教務 C
	2/25(水)	・スポーツ健康科学研究科委員会(修了判定)		
3 月上旬	・同志社大学大学院研究科長会(修了認定)			

教務 C: 京田辺キャンパス教務センター(スポーツ健康科学研究科担当) 於: 成心館 1 階

※春学期修了を希望する者は、指導教員に相談のうえ4月初旬に教務センターまで申し出ること。

- 1) A、Bは研究科生で運営する。発表に関する運営、スケジュールの確認を研究科専攻教務主任と、機器等の貸出は事務室で行うこと。Cは主査の指示に従うこと。
- 2) Dの公聴会については、司会は主査が行う。機器、資料等の準備は研究科生で行うこと。
- 3) 予備審査会を除く各発表会はオープンとする。なお、予備審査会は発表者以外立入不可とする。
- 4) 研究計画・執筆計画発表会、中間発表会、修士論文予備審査会、修士論文最終審査会(公聴会)の当日スケジュールについては別途指示する。
- 5) 各種様式はスポーツ健康科学研究科のホームページから適宜ダウンロードすること。

M-5. 各種研究計画進捗状況発表会について

本研究科では体系的な研究体制を構築するべく、年次ごとに各人の研究計画の進捗状況を研究科全体で把握できる体制をとっている。

学年	セメスター	進捗状況確認方法	終了後提出物
M1	1	A:研究計画・執筆計画発表会	研究・執筆計画書(8月)
	2	研究進捗状況の確認 (指導教員による確認)	
M2	3	B:中間発表会	中間報告書(8月)
	4	C:修士論文予備審査会	※1
D:修士論文最終審査会(公聴会)		※2	

※1: 修士論文提出者を修士論文予備審査会対象とする。

※2: 予備審査会通過者を最終審査会対象者とする。

(発表時間)

・研究計画・執筆計画発表会	: 発表 10分、質疑応答 10分
・中間発表会	: 発表 10分、質疑応答 10分

1)【M1】研究計画・執筆計画発表会

長期履修研究科生を含め M1の7月に実施する。

発表者は

- 1) 当日発表会場に抄録(A4サイズ1枚以内:両面可)を50部持参すること。
- 2) 発表会の後、8月の指定日までに「研究計画・執筆計画書」を提出しなければならない。

【研究計画・執筆計画書について】

提出場所	京田辺キャンパス教務センター(スポーツ健康科学研究科担当) 於:成心館1階
提出期限	2025年8月29日(金) 17時厳守 学生証を持参の上、本人が提出のこと。代理人の提出は認めない。 なお、提出日時に遅れた場合は一切受付しない(突発的な事故が発生した場合でも事前に連絡がない場合は不可)。 また、一度受付した提出物は変更できない。
作成要領	以下の通り ※データでなく紙で出力したものを提出すること。

- (1) 研究計画・執筆計画書(research proposal)は、当該研究テーマの背景・枠組み(文献 review)、研究の目的、研究方略、具体的な研究方法など、学位論文のための研究計画を論文形式で著すものである。
- (2) 研究計画・執筆計画書の構成内容は、最終的な学位論文の内容のうち、緒言、文献 review(研究小史)、研究方法から構成する。予備実験等の結果があればそれも含む。出来映えがよければ、そのまま学位論文の構成をなす。

a. 緒言

緒言では、研究の背景、根拠、目的等に言及し、何をどこまでどのような研究方略で明らかにしようとするのかを説明する。ストーリー性のある書き方を考慮する。

構成は、原則として以下の内容を含むものとするが、それらの記載順序や章立て等については、緒言のストーリー性を重視しながら各研究領域の特色を踏まえる。

- ① 概括的導入
 - ② 背景となる情報
 - ③ 自分の研究へのつなぎ
 - ④ 問題提起
 - ⑤ 研究仮説の提示
 - ⑥ 用語の定義
 - ⑦ 研究の仮定条件・限界
 - ⑧ 研究の意義・重要性、など
- ④から⑧では、研究方略とその論理的根拠や仮説を示す。

b. 文献 review

文献 review の目的は、研究の背景となる研究小史および理論的・方法論的根拠を示すところにある。したがって、主要な引用文献については、その研究の目的、方法、結果、結論などを簡潔に 1 段落にまとめる。また、データベース等の2次資料ではなく、必ず文献コピーを取り寄せ、内容を確認したものを引用し、著作権等に十分に留意する。

c. 研究方法

研究方法の章では、研究方略とその具体的方法、実験(調査)方法に言及する。実験(調査)方法は、他の研究者が本研究の検証が実施可能なように詳述する。付随的資料(特殊な実験装置、調査用紙、データ記録用紙、同意書など)については、付録として巻末に掲げる。

記載内容や形式は、原則として以下の内容を含むものとする。ただし、以下の例は主に自然科学系に共通する形式で、社会科学や人文科学系の詳細は各々の分野の記述方法に従う。また、とくに国際誌では、統計の取り扱いに厳しくなっていることに留意すること。海外からの論文査読依頼には、必ずといっていいほど統計手法の妥当性のチェックが要求される。ちなみに、実験計画を立てる段階で用いるべき統計手法も決まってくるものである。なお、大学院の実験等は本学の倫理審査を受けなければならない。

- ① 実験参加者
 - ② 実験変数(独立変数、従属変数)、実験装置、調査・テストなどを含む
 - ③ 手順(従属変数のデータ収集の全手順)
 - ④ 実験計画と分析方法(独立変数の設定と従属変数の分析方法)
 - ⑤ 実験仮説
- (3) 研究計画・執筆計画書の書式は、原則として以下の通りとする(詳細は指導教員の指示に従うこと)。表紙に入学(西暦)年度、論文題名、氏名、指導教員名を記し、以下の順序で綴じる。
- ① 要旨
 - ② 目次
 - ③ 本文
 - ④ 付録資料

<書式>

A4、横書き、1ページ 40 字×35 行 文字サイズ 11 ポイントを目安とする。自然科学系の論文は英数字が混在することや特殊記号との読み誤りを防ぐため、読点はカンマ(,)または(、)、句点はピリオド(.)または丸(。)にすること。

2)【M2】中間発表会

M1 において研究計画・執筆計画発表者で「研究計画・執筆計画書」を提出済みの者のみが、M2 の7月に修士論文の中間発表を行う(長期履修研究科生については原則として修了希望年度に実施する)。

発表者は

- 1) 当日発表会場に**抄録(A4 サイズ 1 枚以内:両面可)を 50 部持参**すること。
- 2) 発表会の後、8月の指定日までに「中間報告書」を提出しなければならない。

【中間報告書について】

提出場所	京田辺キャンパス教務センター(スポーツ健康科学研究科担当) 於:成心館 1 階
提出期限	2025 年 8 月 29 日(金) 17 時厳守 学生証を持参の上、本人が提出のこと。代理人の提出は認めない。 なお、提出日時に遅れた場合は一切受付しない(突発的な事故が発生した場合でも事前に連絡がない場合は不可)。 また、一度受付した提出物は変更できない。
作成要領	以下の通り ※データでなく紙で出力したものを提出すること

1. 論文の構成
表紙に入学(西暦)年度、論文題名、氏名、指導教員名を記し、以下の順序で綴じる。
 - ① 要旨
 - ② 目次
 - ③ 本文
 - ④ 付録資料

2. 文章表記上の注意事項
 - 書式は「研究計画・執筆計画書」と同様とする。
 - 項目区分は、次を使用する。
大項目：Ⅰ、Ⅱ、…、または第1章、…
中項目：1、2、…
小項目：(1)、(2)……
 - 図表は通し番号を付し、表題をつける。必ず、出所、単位を明記する。
 - 注記は通し番号1)、2)・・を付し、脚注にする。
 - 参考文献は主としてバンクーバー方式とハーバード方式があるが、どちらでもかまわない。

3. 修士論文が未だ構想中の場合にはその目次と概要を必ず示すこと。
報告する中間報告書が、最終的な修士論文の一部(たとえば前半部の数章)にそのまま該当できることが望ましい。

M-6. 学位論文について

I. 各種提出要領について

1) (M1)論文作成申請書

研究計画・執筆計画発表会後に、指導教員と相談のうえ、「修士論文」または「課題研究論文」のいずれを執筆するかを検討し、申請書を提出する。

なお、修士論文と課題研究論文で修了に必要な単位数が異なるので、注意すること。

提出場所	京田辺キャンパス教務センター(スポーツ健康科学研究科担当) 於:成心館1階
提出期限	2025年8月29日(金) 17時厳守 学生証を持参の上、本人が提出のこと。代理人の提出は認めない。 なお、提出日時に遅れた場合は一切受付しない(突発的な事故が発生した場合でも事前に連絡がない場合は不可)。 また、一度受付した提出物は変更できない。
作成要領	また、本書類は学位取得に係る重要な書類であるため、指導教員の押印が必要となる。 ※データでなく紙で出力したものを提出すること。

2) (M2)学位論文題目届

修士学位論文の提出に先立ち「学位論文題目届」(指定用紙)を提出しなければならない。

題目は後で修正することのないよう、指導教員とよく相談のうえ、決定すること。

提出期限	2025年10月31日(金) 17時厳守
提出場所	京田辺キャンパス教務センター(スポーツ健康科学研究科担当) 於:成心館1階
提出物	学位論文題目届(様式5) : 1部 (英文の場合は和訳を附記すること)

提出方法	<p>(1) ホームページより様式5をダウンロードし、各自確認のうえ内容を記載し、指導教員押印のうえ、必ず下記の提出期限までに提出すること。※データでなく紙で出力したものを提出すること</p> <p>(2) 学生証を持参の上、本人が提出のこと。代理人の提出は認めない。 なお、提出日時に遅れた場合は一切受付しない(突発的な事故が発生した場合でも事前に連絡がない場合は不可)。 また、一度受付した提出物は変更できない。</p> <p>(3) 過去に題目届を提出している場合でも、論文を提出する学期にあらためて提出すること。</p>
------	--

3) (M2) 修士論文または課題研究論文

提出期限	2025年12月19日(金) 17時厳守
提出場所	京田辺キャンパス教務センター(スポーツ健康科学研究科担当) 於:成心館1階
提出物	<ul style="list-style-type: none"> ・修士論文 : 3部 ・修士論文 予備審査会用発表抄録 A4版(片面4ページ以内) : 3部 ・修士論文 製本費納入済証 : 1部
提出要領	<p>(1) 学生証を持参の上、本人が提出のこと。代理人の提出は認めない。 なお、提出日時に遅れた場合は一切受け付けない(突発的な事故が発生した場合でも事前に連絡がない場合は不可)。</p> <p>(2) 製本に要する費用は自己負担とする。 論文はスポーツ健康科学研究科において製本および保管をするので、製本に要する費用を納入しなければならない。京田辺キャンパス教務センターで、証明書発行機に製本費(2,000円)を納入し、「修士論文製本費納入済証」を発行すること。</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・装丁は以下の通りとする。 ・論文の構成については、「修士論文の構成例について」を参考にすること。
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「論文題目」は事前に提出した「学位論文題目届」と一致したものを提出すること(「」の有無、「」○○○」などの記号まで一字一句相違のないように注意すること)。 ・表表紙が必要となるので、注意すること。

【修士論文・課題研究論文装丁について】

<p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A4版横書き、1ページ 40字×35行 文字サイズ11ポイントを目安とする。 ・枚数は領域によって変わるため指導教員の指示に従うこと。 ・読点はカンマ「,」、または「、」、句点はピリオド「.」、または「。」とし、論文内では統一すること。 <p>【綴じる順序】</p> <p>上から順に次のとおりとする。ただし、1.～4.については、12月の提出時は省略可とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 白紙 2. 論文の表紙 3. トレーシングペーパー 4. 提出者の写真(タテ6cm×ヨコ5cm、上半身脱帽、最近半年以内に撮影のもの。)を貼った用紙。 写真の下に自筆の署名。 5. 梗概または概要(Abstract) (日本語、英語の順で) 6. 目次 7. 本文 (以下必要があれば) 8. 参考文献目録、引用文献等 9. 業績表 10. 付図、付表、写真等(本文内に埋め込みでも可) デジタルカメラで撮影して出力した写真であっても、鮮明であれば差し支えない。 11. 特記事項(学会賞および顕著な研究活動等がある場合は、その概要とともに記載できる。
--

【様式】

- ・A4 サイズ、白色用紙(再生紙は不可)、片面使用、左横綴じとする。
- ・本文の最初のページを1ページ目として、ページ番号を用紙下部中央に記載すること。

【表紙(カバー)】

- ・中身が傷んだり順序が狂ったりしないようにバインダー(レバー式ファイル)に綴じる。
- ・バインダーには表紙を付け

①論文題目**②入学年度・番号、氏名(例:2015年度 1番 同志社太郎)****③指導教員名(例:指導教員 京田辺太郎)**

を明記すること。

※書類はすべて黒インクで記入のこと。ただし、論文および発表抄録はこのかぎりではない

【修士論文の構成例について】

修士論文(和文)の構成例	修士論文(英文)の構成例
i. タイトルページ ii. 要旨 iii. 目次 ① 緒言 ② 研究の背景・枠組み(研究小史) ③ 研究の目的、研究方略、全体の構成など ④ 実験 1 (目的、方法、結果、考察) ⑤ 実験 2 (目的、方法、結果、考察) ⑥ 総合考察 ⑦ 結論 ⑧ 文献 ⑨ 補足資料(実験データなど)	i. title page ii. acknowledgment iii. table of contents iv. lists of tables and figures v. abstract ① Introduction ② Review of Literature ③ General Purpose and Methods (rationale) ④ Experiments (Purpose, Methods, Results, Discussion) ⑤ General Discussion ⑥ Conclusion ⑦ References ⑧ Appendices

修士論文、課題研究論文提出後に、論文審査委員による修士論文予備審査会が行われ、論文査読主査から「審査査読結果」が報告される。査読結果は以下の通りとなり、①・②の場合は、修士論文最終審査会が行われる。

①受諾**②修正後、再提出****③不可**

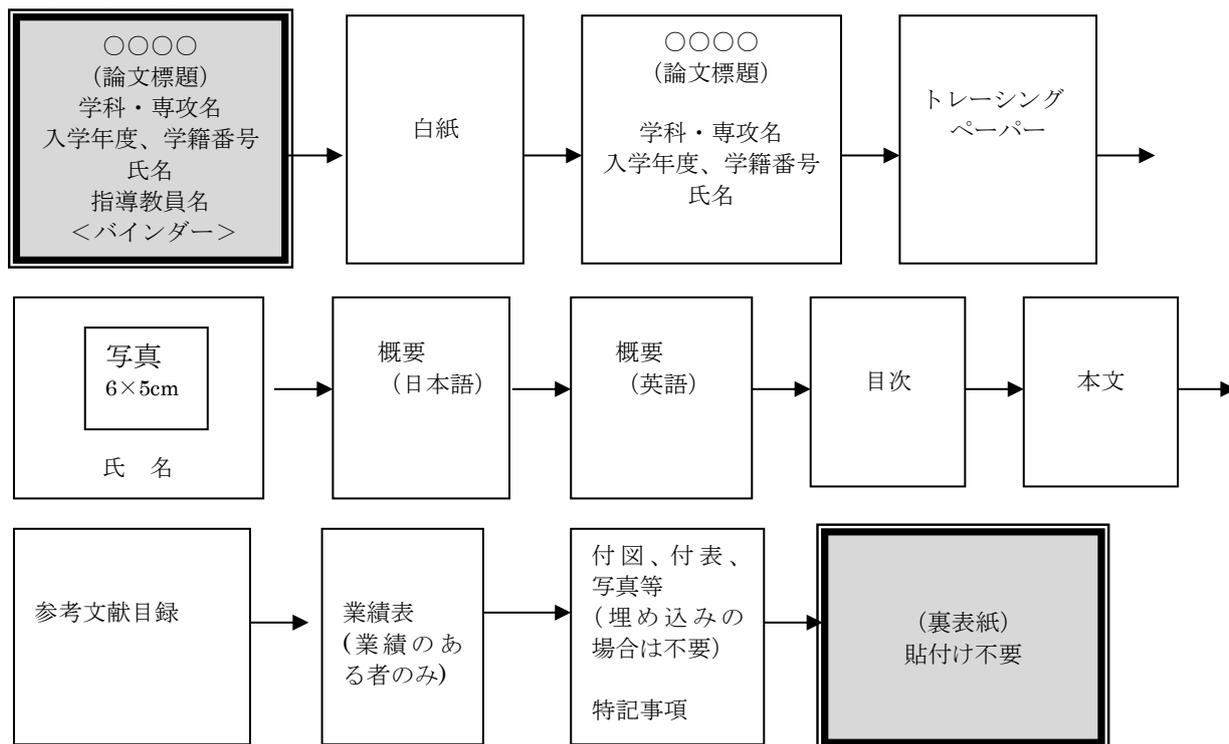
<対応方法>

- ・②の場合:以下の要領で論文改訂版(最終版)と、審査会意見に関する回答書を提出する必要がある。
- ・①の場合:以下の要領で製本版の論文を提出のこと。
- ・③の場合:指導教員に相談のこと。

4)論文改訂版(最終版)、審査会意見に関する回答書

提出期限	2026年2月12日(木) 17時締切
提出場所	京田辺キャンパス教務センター(スポーツ健康科学部担当) 於:成心館1階
提出物	1)修士論文 : 1部 (12月と同要領、ただし再提出時には「修士論文製本費納入済証」は不要) 2)審査会意見に関する回答書 : 1部(A4サイズ、様式自由) 3)学位論文題目変更届(様式6) : 1部 (題目が変更となる場合のみ) 4)年間の活動報告書(様式7) ※最終審査会での指摘事項等を修正し、審査委員の確認後に提出すること。
提出要領	学生証を持参の上、本人が提出のこと。代理人の提出は認めない。 なお、提出日時に遅れた場合は一切受け付けない(突発的な事故が発生した場合でも事前に連絡がない場合は不可)。改訂版(最終版)提出以降の差し替え・修正は一切認めない。
備考	(1)論文の装丁:バインダーの綴じ方は以下の通りとする。 (2)審査終了後、審査に合格した「修士論文」は製本のうえ、スポーツ健康科学研究科書庫で保管される。主査・副査分については、必要に応じて各自対応すること。※また、論文題目が変更となった場合は、この時に必ず合わせて「学位論文題目変更届」を再提出すること。

<修士論文装丁:バインダーの綴じ方>



II. 審査会について

審査会での発表時間

審査会名	発表時間等
修士論文予備審査会	主査・副査により実施
修士論文最終審査会(公聴会)	発表 12 分、質疑応答 8 分

- 修士論文予備審査後に審査委員会を実施し、主査から審査査読結果報告がある。(必要に応じて追加の審査を行う場合がある)
- 修士論文最終審査会(公聴会)の審査結果は、修了判定を含め 3 月上旬に学位授与に係る通知を郵送にて送付する。

III. その他

- 1) 学費未納者は、2 月下旬のスポーツ健康科学研究科委員会までに、学費を完納する必要がある。
- 2) 提出書類は、学生証を持参の上、本人が提出のこと。代理人の提出は認めない。なお、提出日時に遅れた場合は一切受け付けない。

スポーツ健康科学研究科修士論文審査基準

2014 年 2 月 19 日制定

趣旨

大学院設置基準第 14 条 2「大学院は、学修の成果および学位論文に係る評価並びに修了の認定に当っては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする」にもとづいて、修士論文審査基準を以下のように定める。

主査と複数名の副査による論文査読、並びに公聴会における質疑を通じてその内容を審査する。提出された修士論文や公聴会等における審査の基準は以下に定める。

1. 研究の目的の妥当性
研究テーマは新規性、独創性があり合理的であるか。
2. 情報収集能力
研究課題の背景や意義についての知識は十分なものか。
研究を理解するための知識の解説や先行研究についての説明が十分で、研究課題の設定に至るまでの論理が合理的であるか。
3. 研究方法の妥当性
研究計画や研究方法について十分な吟味と説明がなされ、研究課題の分析に最適な実験方法や調査方法であったか。
実験の再現性を保証するために、研究方法が詳細に記載されているか。
4. 問題分析能力
実験データや調査結果についての整理と解析が十分になされ、一貫した流れの中で記載されているか。
得られた結果に基づいた仮説や結論の展開が十分であるか。
結論に至る議論の展開に矛盾がなく、論理性が維持されているか。
5. 社会・学会等への貢献
広く社会や当該研究領域の発展に貢献する学術的価値が認められるか。
6. 将来性
当該研究において残された課題を把握し、今後の発展性を提示しているか。
7. 情報発信能力
論文や口頭発表は論理的に分かりやすく構成され、質問に対して的確に答えられていたか。

以上

M-7. 研究遂行上の留意事項

研究を円滑・効果的に進めるために、研究科生は以下のことに十分に留意すること。とくに、様々な精神的悩みや困難等が生じた場合は、指導教員、研究科長、研究科専攻教務主任、研究科事務室、学生支援センター・カウンセリングセンター等に、早めに気軽に相談すること。

(研究室の決定・変更、指導教員以外による研究指導等)

- (1) 研究指導を受ける教員(指導教員)は、1年次の4月に正式決定する。
- (2) 研究領域や研究室の変更の希望が生じた場合は、所定用紙(京田辺キャンパス教務センター成心館スポーツ健康科学研究科事務室に設置)により申請すること。なるべく研究科生の希望を考慮するが、適切な受入れ研究室(指導教員)が見つからない場合には変更が困難になることがある。
- (3) 研究遂行上、特別な理由で、指導教員以外からの指導を受ける必要が生じた場合は、指導教員と相談のうえ、他の教員の指導を願い出ることができる。

(研究テーマの設定)

- (4) 研究テーマの設定は、研究科生の希望を第一としながらも以下の条件を満たすものとなる。したがって、指導教員と十分に相談の上、早めに決定すること。最終的なテーマ設定時期の目安は、研究計画発表会(7月)の時期とし、予備的な実験などを進めておくことが望ましい。
 - ・ 在学期間内に学位論文としてまとめられる見通しのあるテーマ。
 - ・ 指導教員の指導可能範囲内のテーマ、すなわち、他の教員や他研究科、他大学での指導が主とならないもの。
 - ・ 研究室で進めている実験・調査に関する諸条件の範囲内の研究テーマ。

(研究指導の内容と研究活動への参加)

- (5) 研究指導は学位論文の執筆・完成に必要な研究過程のすべてにわたって行われる。講義、研究Ⅰ～Ⅳなどととも、研究室の教員や他の院生の研究への参加・協力をとおして、研究技法や考え方等を学ぶ機会とする。
- (6) 各種発表会の予定にあわせて研究計画を立てることが望ましい。
- (7) 各種発表会は、研究発表・質疑応答の練習の場であるとともに、他分野の研究や考え方について理解を深める絶好の機会でもあるので、積極的に討議に参加すること。

(各種補助金制度等への申請)

- (8) 文部科学省や日本学術振興会等の各種研究助成制度がある。特に後期課程への進学を希望する前期2年次研究科生は、日本学術振興会の博士後期課程特別研究員DC1にトライ(申請)することが望ましい(例年5月初旬)。

(大学院生国内学会発表奨励金制度について)(2024年度以前生のみ)

- (9) 大学院生が国内で開催される全国規模の学会(国際学会も含む)で筆頭発表者(口頭・ポスター)として発表する場合、国内学会発表奨励金を支給する。なお、支給回数は年度内に2回とする。奨励金の申請には指導教員の推薦を必要とする。

M-8. 授業科目履修上の注意

以下は、本研究科における一般的注意事項である。

(1) 研究 I～IVは各指導教員の実施方法にしたがって行われる。他の研究室の研究 I～IVの履修を希望する者は、指導教員に相談のうえ、担当教員に申し出て許可を受ける。

(2) 講義と実験演習のいくつかは、集中講義として行われるので注意すること。

◆ いずれの授業科目も、実施曜日・時限・場所が変更される場合がある。

(3) 授業 1 週目 (D0 Week) と授業 2 週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法について通常の教室での授業は 13 週の授業期間に受講し、残り 2 週分の授業はオンデマンドで受講することを基本とします。授業 1 週目 (D0 Week) のオンデマンド配信はシラバスから URL を確認、受講の上、指示された課題等に取り組んでください。具体的な受講手順については大学 HP に掲載していますので、以下の URL、QR コード等から詳細を確認してください。

また、授業 2 週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法については科目担当者からの指示に従ってください。

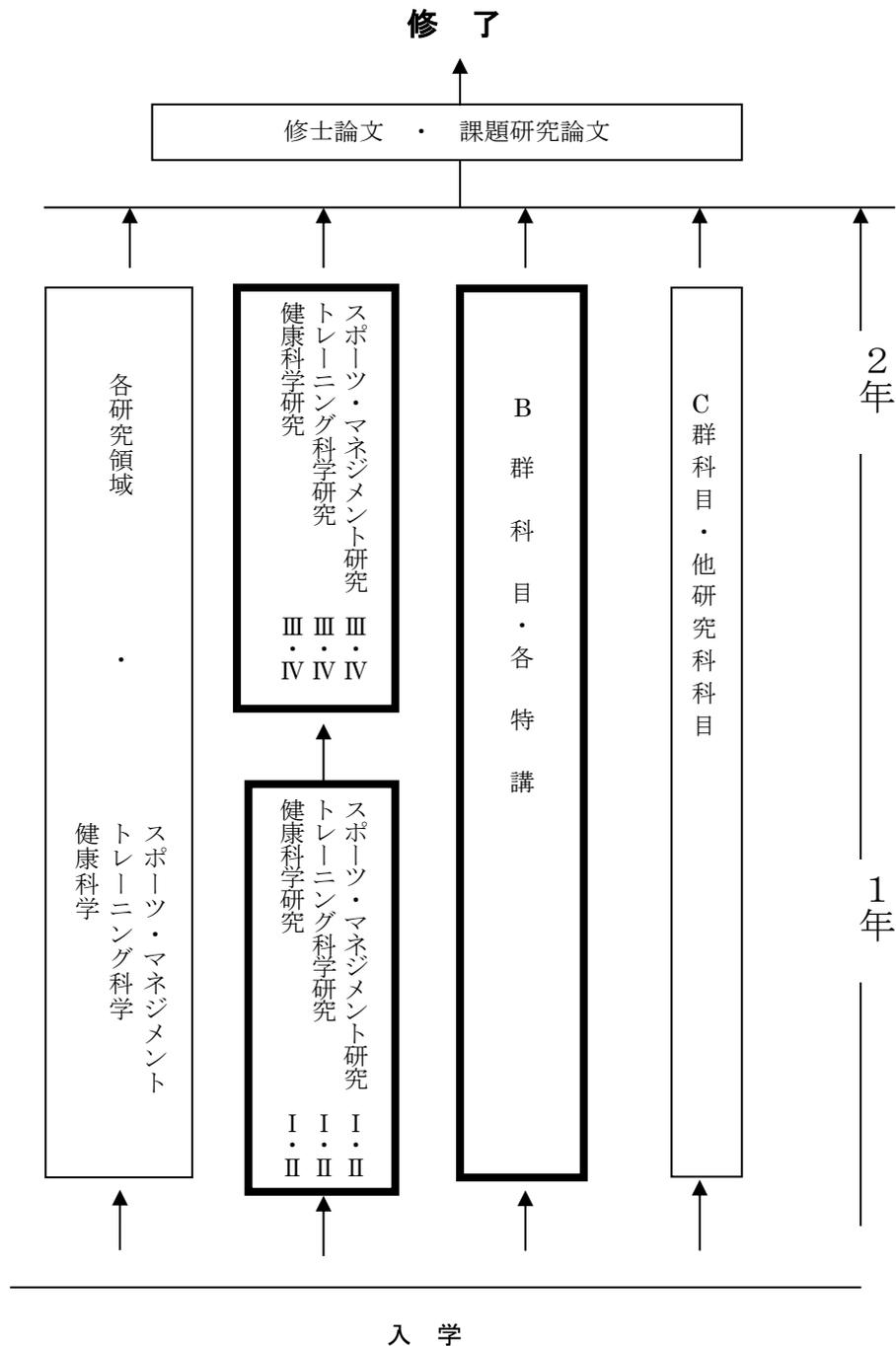
■D0 Week から始まる新たな学び

https://www.doshisha.ac.jp/students/new_calender/index.html



M-9. 博士課程(前期課程)履修計画の概要

以下のような流れで、1・2年次に履修すべき科目を履修し、修士論文・課題研究論文に繋がる学習を進めること。



- ◆ スポーツ健康科学専攻が指定する必修科目（～研究1科目）を含めて授業科目を履修しなければならない。
- ◆ 特講などのB群科目は、主とする分野を中心に、修了後の進路を見据えて履修すること。

同志社大学スポーツ健康科学研究科

2020年1月22日制定

2020年2月19日改正

1. スポーツ健康科学研究科博士課程（前期課程）においては、学位論文（「修士論文」もしくは「課題研究論文」）の執筆・完成が最終目標となる。
2. スポーツ健康科学研究科博士課程（前期課程）では、学生が学んだ成果として、学位授与方針で掲げた資質及び能力（【知識・技能】、【思考力・判断力・表現力】、【主体性・多様性・協働性】）の獲得状況を、最終目標である学位論文（「修士論文」もしくは「課題研究論文」）の執筆・完成の内容の評価により把握する。
3. 学位論文（「修士論文」もしくは「課題研究論文」）の評価では、ルーブリックを用いて学位授与方針で掲げた資質・能力の獲得状況を把握し、当該学位論文（「修士論文」もしくは「課題研究論文」）のスポーツ健康科学研究科修士論文審査基準への到達度を確認する。
4. ルーブリックは、スポーツ健康科学研究科委員会で定める。なお、ルーブリックにおける観点（評価項目）は【研究課題の設定】、【研究方法】、【研究結果】、【情報処理・統計解析】、【研究倫理】、【研究結果の評価】、【研究成果の発表】、【質疑応答】、【研究への取組み】の9項目とし、尺度（達成度のレベル）は4段階とする。

以上

スポーツ健康科学研究科博士課程(前期課程) ルーブリック

2020年1月22日制定

	A	B	C	F	評価
研究課題の設定 * 研究の背景の理解 * 仮説の設定 * 目的の設定 (知識)	スポーツ健康科学を体系的に理解し、そのスポーツ健康科学領域における研究課題に関連する国内外の先行研究や研究小史を精査し、適切な研究目的を設定できている	スポーツ健康科学を体系的に理解し、そのスポーツ健康科学領域における研究課題に関連する国内外の先行研究や研究小史を精査し、適切な研究目的を設定できているが、若干不十分な部分がある	スポーツ健康科学を体系的に理解し、そのスポーツ健康科学領域における研究課題に関連する国内外の先行研究や研究小史を精査し、適切な研究目的を設定できているが、不十分な部分がある	スポーツ健康科学を体系的に理解し、そのスポーツ健康科学領域における研究課題に関連する国内外の先行研究や研究小史を精査が不十分であり、適切に研究目的を設定できていない	
研究方法 * 研究方法の設定 * 研究方法の習得 (技能)	研究課題達成に必要な研究方法を先行研究や最新の情報などに基づいて適切に設定して、再現性を保証できるように詳細に記載し、その手法(実験手技・調査手技など)を十分に習得して実行できている	研究課題達成に必要な研究方法を先行研究や最新の情報などに基づいて設定して、再現性を保証できるように記載し、その手法(実験手技・調査手技など)を習得して実行できているが、若干不十分な部分がある	研究課題達成に必要な研究方法を先行研究や最新の情報などに基づいて設定して、再現性を保証できるように記載し、その手法(実験手技・調査手技など)を習得して実行できているが、不十分な部分がある	研究課題達成に必要な研究方法の設定のための準備や理解が不十分で、その記述や手法(実験手技・調査手技など)の習得についても不十分である	
研究結果 * 研究結果の質 * 研究結果の量 (技能)	研究成果を研究方法に設定した順に一貫した流れの中で、必要に応じて適切な図表等を用いて明確に整理・解析して表記しており、その質および量ともに十分である	研究成果を研究方法に設定した順に一貫した流れの中で、必要に応じて適切な図表等を用いて明確に整理・解析して表記しているが、若干不十分な部分がある	研究成果を研究方法に設定した順に一貫した流れの中で、必要に応じて適切な図表等を用いて明確に整理・解析して表記しているが、不十分な部分がある	研究成果を研究方法に設定した順に一貫した流れの中で、必要に応じて適切な図表等を用いて明確に整理・解析して表記できていない	
情報処理・統計解析 (技能)	情報処理や統計解析に必要な正しい知識を十分に習得・理解し、研究課題に必要な統計手法などを適切に運用し、研究結果を的確に評価できる	情報処理や統計解析に必要な正しい知識を習得・理解し、研究課題に必要な統計手法などを適切に運用し、研究結果を的確に評価できているが、若干不十分な部分がある	情報処理や統計解析に必要な正しい知識を習得・理解し、研究課題に必要な統計手法などを適切に運用し、研究結果を的確に評価できているが、不十分な部分がある	情報処理や統計解析が不十分である	
研究倫理 (知識)	スポーツ健康科学分野の研究に必要な研究倫理を十分に理解して、適切な手続きと手段によって研究の遂行に必要な倫理審査等の認可を得て、研究を実施できる	スポーツ健康科学分野の研究に必要な研究倫理を理解して、適切な手続きと手段によって研究の遂行に必要な倫理審査等の認可を得て、研究を実施できているが、若干不十分な部分がある	スポーツ健康科学分野の研究に必要な研究倫理を理解して、適切な手続きと手段によって研究の遂行に必要な倫理審査等の認可を得て、研究を実施できているが、不十分な部分がある	研究倫理に対する理解が不十分で、倫理的に適切に研究を実施できていない	
研究結果の評価 (思考力) (判断力)	研究結果を既存の知識や過去の研究成果に基づいて論理的に解析し、矛盾のない論旨展開によって結論を導き、その学術的意義を適切に評価できる	研究結果を既存の知識や過去の研究成果に基づいて論理的に解析し、矛盾のない論旨展開によって結論を導き、その学術的意義を適切に評価できているが、若干不十分な部分がある	研究結果を既存の知識や過去の研究成果に基づいて論理的に解析し、矛盾のない論旨展開によって結論を導き、その学術的意義を適切に評価できているが、不十分な部分がある	研究結果の解析に論理性を欠き、無理や不合理があり、矛盾なく結論を導けていない	
研究成果の発表 (思考力) (判断力) (表現力)	研究成果を研究科において定められた審査会(中間発表会・修士論文予備審査会・修士論文最終審査会)において発表し、その内容は十分に準備され、説得力のあるものである	研究成果を研究科において定められた審査会(中間発表会・修士論文予備審査会・修士論文最終審査会)において発表し、その内容は準備され、説得力のあるものがあったが、若干の不十分な部分がある	研究成果を研究科において定められた審査会(中間発表会・修士論文予備審査会・修士論文最終審査会)において発表し、その内容は準備され、説得力のあるものがあるが、不十分な部分がある	研究成果を研究科において定められた審査会(中間発表会・修士論文予備審査会・修士論文最終審査会)において発表していないもしくは発表しているが、その内容は不十分なものである	
質疑応答 (思考力) (判断力) (表現力)	研究成果を研究科において定められた審査会(中間発表会・修士論文予備審査会・修士論文最終審査会)における発表後の質疑応答において、質問を的確に理解し、適切に回答できる	研究成果を研究科において定められた審査会(中間発表会・修士論文予備審査会・修士論文最終審査会)における発表後の質疑応答において、多くの質問を的確に理解し、適切に回答できているが、若干不十分な部分がある	研究成果を研究科において定められた審査会(中間発表会・修士論文予備審査会・修士論文最終審査会)における発表後の質疑応答において、質問を的確に理解し、適切に回答できているが、不十分な部分がある	研究成果を研究科において定められた審査会(中間発表会・修士論文予備審査会・修士論文最終審査会)における発表後の質疑応答において、質問に対する理解や回答は不十分である	
研究への取り組み * 積極性・発展性 (主体性) (協働性) (多様性)	研究に対して積極的に取り組み、必要に応じて他の研究者と協働して問題解決に当たることができる	研究に対して積極的に取り組む姿勢と必要に応じて他の研究者と協働して問題解決に当たる姿勢が認められるが、若干不十分な点がある	研究に対して積極的に取り組む姿勢と必要に応じて他の研究者と協働して問題解決に当たる姿勢が認められるが、不十分な点がある	研究に対して積極的に取り組む姿勢や他の研究者と協働する姿勢は不十分である	

2025年度

スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻
大学院生(後期課程)のための手引き

目 次

D-1. 人材養成の目的および学位授与方針	17
D-2. 修了および学位取得の条件	18
D-3. 博士課程(後期)修了までのスケジュール	19
D-4. 2025年度スケジュール(予定)について	20
D-5. 各種研究計画進捗状況発表会について	21
D-6. 学位論文について	23
D-7. 研究遂行上の留意事項	31
(参考)博士学位論文提出パターン	32
博士課程(後期課程)アセスメント・ポリシー	33

スポーツ健康科学研究科博士課程(後期課程)においては、学位論文の執筆・完成が最終目標となる。各指導教員の研究指導のもとに各自の研究を精力的に進めていくとともに、授業や中間発表会などを十分に活用し、意義深い学位論文の執筆に結び付けていただきたい。

この「大学院生のための手引き(後期課程)」では、おもに学位取得の条件や学位申請までの手順などにふれ、課程修了までの指針を示す。

D-1. 人材養成の目的および学位授与方針

スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻博士課程(後期)の「人材養成目的」および「学位授与方針」を以下の通り定める。

■人材養成目的

スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻博士課程(後期)は、隣接諸科学の先端的知見とスポーツ健康科学の専門的知識を修得し、その成果を的確かつ柔軟に応用、運用できる能力を身に付けて、大学・研究所において広範囲な研究能力を発揮して新たな学問領域の開拓をする研究者や、医療・健康関連産業や地方自治体等において、学際的かつ高度な専門性を生かして活躍する超高度専門職業人となる人材の養成を目的とする。

■ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

【知識・技能】 スポーツ健康科学の先端的な専門知識と技術を深化させることができる。

【思考力・判断力・表現力】 スポーツ健康科学の先端的な専門的知識と技術を駆使して、得られた成果を的確に応用できる。

【主体性・多様性・協働性】 スポーツ健康科学の先端的分野で独創的な研究を展開し、国際的な貢献ができる。

D-2. 修了および学位取得の条件

後期課程の修了要件および学位取得要件は以下のとおりである。

学位：博士（スポーツ健康科学）

修了要件：以下の(1)～(5)の要件を全て満たさなければならない。

- (1) 本博士課程（後期課程）に3年以上在学していること。
- (2) 演習科目「スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ～Ⅵ」を履修していること。
- (3) 研究科内に設置されている講義科目「深論」から合計2単位以上、演習科目「特殊演習」から合計2単位以上を履修すること。なお、特殊演習は必ず特殊研究と同教員のクラスを履修・登録すること。
- (4) 博士論文を提出し最終試験（最終審査会）に合格すること。
- (5) 研究に必要な外国語1カ国以上に通じていること（英語資格試験の合格が必須）。

※)博士學位論文を提出する予定の年度には、必ず「論文」を履修登録すること。

また、修了要件に定められている「學位論文」最終試験にあたり、博士學位論文（課程博士）提出要件を以下の通り定める。提出時に以下の要件確認を行うので、それまでに必ず要件を満たしておくこと。

博士學位論文（後期課程）提出要件

（全学年共通）

以下の(1)～(4)の要件を全て満たさなければならない。

- (1) 今年度に修了見込で、「論文」を科目登録済であること。
- (2) 全体討論会で発表済であること。
- (3) 当該研究分野の査読付国際学術学会誌に1篇以上の研究論文を公表（第一著者）していること。
- (4) 国際学会で1回以上の研究発表していること。

【早期修了について】

同志社大学大学院学則第7条第1項「優れた業績をあげた者については、大学院に1年以上在学すれば足りる者とする」の「優れた研究業績」とは、

- ・本博士課程（後期）入学後學位論文提出までに、国内外の著名な学術誌に2編以上の研究論文を公表する。
- ・国際学会における研究発表を1回以上行うこと。
- ・履修科目のGPAが4.0以上の優秀な成績を残すこと。

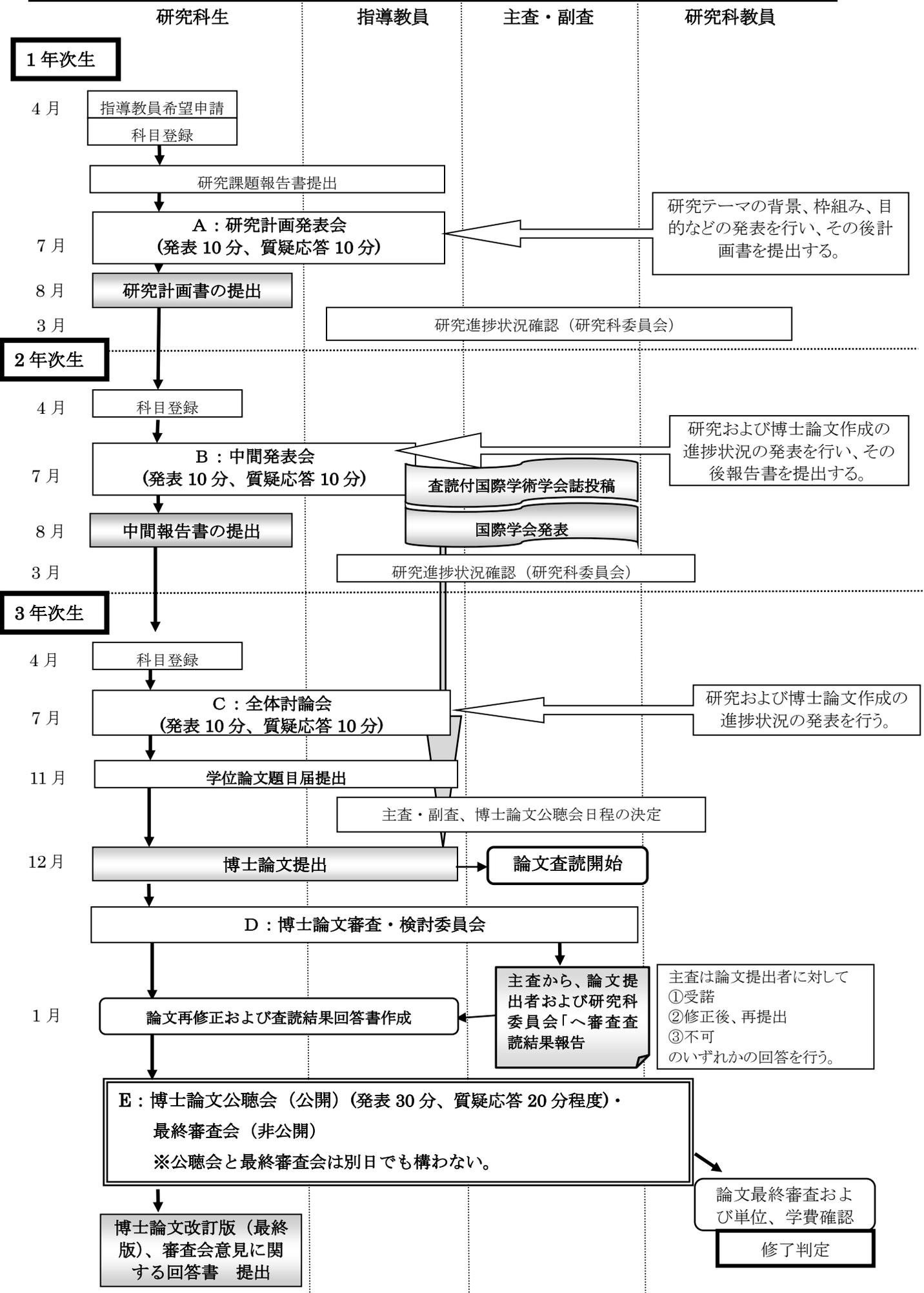
とする。早期修了希望者は、指導教員と相談のうえ、指導教員から専攻教務主任へ申し出ること。

※春学期修了や論文審査在籍料の適用を考えている方は、毎年度2月初旬までに指導教員に申し出て相談すること。

入学から學位論文最終審査会および修了判定までのスケジュールを後述する（標準修了）。

また、標準修了以外の場合は、32ページの學位論文提出パターンを参考の上、早めに指導教員に相談すること。

D-3. 博士課程(後期課程)修了までのスケジュール(予定)



D-4. 2025年度スケジュール(予定)について

課程修了までのスケジュールは以下のとおりである。なお、期日の過ぎた提出物は一切受け付けない。

学年	日時	内容	様式	提出先・実施場所等
1 年 次	4/1(火)	・入学式(研究指導教員希望申請書提出)		様式 1
	4/11(金)	・研究課題報告書提出締切日(仮題でも可)		様式 2
	7/26(土)	・研究計画発表会	A	京田辺 キャンパス
	8/29(金) 17:00 厳守	・「研究計画書」提出締切日		教務C
2 年 次	7/26(土)	・中間発表会	B	京田辺 キャンパス
	8/29(金) 17:00 厳守	・「中間報告書」提出締切日		教務C
3 年 次	7/26(土)	・全体討論会	C	京田辺 キャンパス
	10/31(金)	・学位論文題目届提出締切日 (博士論文提出希望者)		様式 5
	11/19(水)	・主査・副査及び博士論文公聴会日程の決定		
	12/1(月) 17:00 厳守	・博士論文提出締切日		教務C
	12月上旬～ 12月中旬	・主査・副査による学位論文の査読		
	～12月中旬	・博士論文審査・検討委員会(予備審査会) (主査・副査により実施)	D	京田辺 キャンパス
	12月下旬	・主査から審査査読結果報告		
	1月7日(水)or 1月14日(水)or 1月21日(水)	・博士論文公聴会(公開)・最終審査会(非公開) (有資格者:博士論文・審査検討委員会可の者) (発表30分、質疑応答20分程度) ※公聴会と最終審査会は別日程でも構わない。	E	京田辺 キャンパス
	1/30(金) 17:00 厳守	・博士論文改訂版(最終版)提出締切日 審査会意見に関する回答書提出締切日 ※最終審査会での指摘事項等を修正し、審査委員の確認後に提出すること。		教務C
	2/14(土)	・スポーツ健康科学研究科委員会(修了判定)		
3月上旬	・同志社大学大学院研究科長会(修了認定)			

教務C:京田辺キャンパス教務センタースポーツ健康科学研究科担当 於:成心館1階

- 1) A、B、Cは研究科生で運営する。発表に関する運営、スケジュールの確認を教務主任と、機器等の貸出は事務室で行うこと。
- 2) D、Eについては、司会は主査が行う。機器等の準備は研究科生で行うこと。審査・検討委員会、最終審査会を除く各発表会はオープンとする。
- 3) Eの詳細については別途指示する。
- 4) 各種様式はスポーツ健康科学研究科のホームページから適宜ダウンロードすること。

D-5. 各種研究計画進捗状況発表会について

本研究科では体系的な研究体制を構築するべく、セメスターごとに研究計画の進捗状況を研究科全体で把握できる体制をとっている。

学年	セメスター	進捗状況確認方法	終了後提出物
D1	1	A:研究計画発表会	研究計画書
	2	研究進捗状況の確認 (研究科委員会にて実施)	
D2	3	B:中間発表会	中間報告書
	4	研究進捗状況の確認 (研究科委員会にて実施)	
D3	5	C:全体討論会	
	6	D:博士論文審査・検討委員会(予備審査)	※1
		E:博士論文公聴会・最終審査会(非公開)	※2

※1:博士論文提出後に「博士論文審査・検討委員会」を実施し、その後に博士論文公聴会・最終審査会を実施する。

※2:博士論文審査・検討委員会(予備審査)通過者のみ。

(発表時間)

・研究計画発表会	: 発表 10 分、 質疑応答 10 分
・中間発表会	: 発表 10 分、 質疑応答 10 分
・全体討論会	: 発表 10 分、 質疑応答 10 分

※審査会の時間は後述参照。

1) 【D1】 研究計画発表会

長期履修生を含め D1 の7月に実施する。

発表者は

- 1) 当日発表会場に抄録(A4 サイズ 1 枚以内:両面可)を 50 部持参すること。
- 2) 発表会后、8月の指定日までに「研究計画書」を提出しなければならない。

【研究計画書について】

提出場所	京田辺キャンパス教務センター(スポーツ健康科学研究科担当) 於:成心館 1 階
提出期限	2025 年 8 月 29 日(金) 17 時厳守 学生証を持参の上、本人が提出のこと。代理人の提出は認めない。 なお、提出日時に遅れた場合は一切受付しない(突発的な事故が発生した場合でも事前に連絡がない場合は不可)。 また、一度受付した提出物は変更できない。
作成要領	以下の通り ※データでなく紙で出力したもの

- (1) 研究計画書(research proposal)は、当該研究テーマの背景・枠組み(文献 review)、研究の目的、研究方略、具体的な研究方法など、学位論文のための研究計画を論文形式で著すものである。
- (2) 研究計画書の構成内容は、最終的な学位論文の内容のうち、緒言、文献 review(研究小史)、研究方法から構成する。予備実験等の結果があればそれも含む。出来映えがよければ、そのまま学位論文の構成をなす。

a. 緒言

緒言では、研究の背景、根拠、目的等に言及し、何をどこまでどのような研究方略で明らかにしようとするのかを説明する。ストーリー性のある書き方を考慮する。

構成は、原則として以下の内容を含むものとするが、それらの記載順序や章立て等については、緒言のストーリー性を重視しながら各研究領域の特色を踏まえる。

- ① 概括的導入
 - ② 背景となる情報
 - ③ 自分の研究へのつなぎ
 - ④ 問題提起
 - ⑤ 研究仮説の提示
 - ⑥ 用語の定義
 - ⑦ 研究の仮定条件・限界
 - ⑧ 研究の意義・重要性、など
- ④から⑧では、研究方略とその論理的根拠や仮説を示す。

b. 文献 review

文献 review の目的は、研究の背景となる研究小史および理論的・方法論的根拠を示すところにある。したがって、主要な引用文献については、その研究の目的、方法、結果、結論などを簡潔に1段落にまとめる。また、データベース等の2次資料ではなく、必ず文献コピーを取り寄せ、内容を確認したものを引用し、著作権等に十分に留意する。

c. 研究方法

研究方法の章では、研究方略とその具体的方法、実験(調査)方法に言及する。実験(調査)方法は、他の研究者が本研究の検証が実施可能なように詳述する。付随的資料(特殊な実験装置、調査用紙、データ記録用紙、同意書など)については、付録として巻末に掲げる。

記載内容や形式は、原則として以下の内容を含むものとする。ただし、下記の例は主に自然科学系に共通する形式で、社会科学や人文科学系の詳細は各々の分野の記述方法に従う。また、とくに国際誌では、統計の取り扱いに厳しくなっていることに留意すること。海外からの論文査読依頼には、必ずといっていいほど統計手法の妥当性のチェックが要求される。ちなみに、実験計画を立てる段階で用いるべき統計手法も決まってくるものである。なお、大学院の実験等は本学の倫理審査を受けなければならない。

- ① 実験参加者
- ② 実験変数(独立変数、従属変数)、実験装置、調査・テストなどを含む
- ③ 手順(従属変数のデータ収集の全手順)
- ④ 実験計画と分析方法(独立変数の設定と従属変数の分析方法)
- ⑤ 実験仮説

- (3) 研究計画書の書式は、原則として以下の通りとする。表紙に入学(西暦)年度、論文題名、氏名、指導教員名を記し、以下の順序で綴じる。

- ① 要旨
- ② 目次
- ③ 本文
- ④ 付録資料

<書式>

A4、横書き、左右余白 30mm、上余白 35mm、下余白 30mm、標準行数 32 行、行送り 20 ポイントまたは 1-1.5 行間隔、文字の大きさ 10.5 ポイント、MS 明朝または MSP 明朝、英字は Century または Times New Roman を原則とする。自然科学系の論文は英数字が混在することや特殊記号との読み誤りを防ぐため、読点はカンマ(,)または(、)、句点はピリオド(.)または丸(。.)にすること。

2) 【D2】 中間発表会

D1 において研究計画発表者で「研究計画書」を提出済みの者のみが、D2 の8月に博士学位論文の中間発表を行う(長期履修研究生については修了希望前年度に実施する)。発表者は7月の指定日までに「中間報告書」を提出しなければならない。

発表者は

- 1) 当日発表会場に抄録(A4 サイズ 1 枚以内:両面可)を 50 部持参すること。
- 2) 発表会后、8 月の指定日までに「中間報告書」を提出しなければならない。

【中間報告書について】

提出場所	京田辺キャンパス教務センター(スポーツ健康科学研究科担当) 於:成心館 1階
提出期限	2025年8月29日(金) 17時厳守 学生証を持参の上、本人が提出のこと。代理人の提出は認めない。 なお、提出日時に遅れた場合は一切受付しない(突発的な事故が発生した場合でも事前に連絡がない場合は不可)。 また、一度受付した提出物は変更できない。
作成要領	以下の通り ※データでなく紙で出力したものを提出すること

【中間報告書について】

1. 論文の構成

表紙に入学(西暦)年度、論文題名、氏名、指導教員名を記し、以下の順序で綴じる。

- ① 要旨
- ② 目次
- ③ 本文
- ④ 付録資料

2. 文章表記上の注意事項

- 書式は研究計画書と同様とする。
- 項目区分は、次を使用する。
大項目: I、II、…、または第1章、…
中項目: 1、2、…
小項目: (1)、(2)……
- 図表は通し番号を付し、表題をつける。必ず、出所、単位を明記する。
- 注記は通し番号1)、2)・・を付し、脚注にする。
- 参考文献は主としてバンクーバー方式とハーバード方式があるが、どちらでもかまわない。

3. 博士論文が未だ構想中の場合にはその目次と概要を必ず示すこと。

報告する中間報告書が、最終的な博士論文の一部(たとえば前半部の数章)にそのまま該当できることが望ましい。

※中間発表会、全体討論会では研究計画の進捗状況について報告を行う。

3)【D3】全体討論会

D2 において中間発表者で「中間報告書」を提出済の者が、当該年度に論文を提出する場合は全体討論会にて学位論文に係る進捗状況の発表を行う。中間発表会での指摘事項等の改善状況も報告する。また、国際誌および国際学会の発表に係る進捗状況の報告も実施する。

発表者は当日発表会場に抄録(A4サイズ1枚以内:両面可)を50部持参すること。

D-6. 学位論文について

●各種提出要領について

1) (D3)学位論文題目届

博士学位論文提出希望者は提出に先立ち「学位論文題目届」(指定用紙)を提出しなければならない。
題目は後で修正することのないよう、指導教員とよく相談のうえ、決定すること。

提出期限	2025年10月31日(金) 17時厳守
提出場所	京田辺キャンパス教務センター(スポーツ健康科学研究科担当) 於:成心館1階
提出物	・学位論文題目届 : 1部 (英文の場合は和訳を付記すること)
提出方法	(1)ホームページより書式をダウンロードし、各自確認のうえ内容を記載し、指導教員押印のうえ、必ず下記の提出期限までに提出すること。※データでなく紙で出力したものを提出すること。 (2)学生証を持参の上、本人が提出のこと。代理人の提出は認めない。 なお、提出日時に遅れた場合は一切受付しない(突発的な事故が発生した場合でも事前に連絡がない場合は不可)。 また、一度受付した提出物は変更できない。 (3)過去に題目届を提出している場合でも、論文を提出する学期にあらためて提出すること。

2) (D3)博士論文

提出期限	2025年12月1日(月) 17時厳守
提出場所	京田辺キャンパス教務センター(スポーツ健康科学研究科担当) 於:成心館1階

※論文提出日までに、博士論文審査基準に明記された博士学位論文の提出要件を満たしていること。

1. 提出書類および部数(ホチキス留めは不要です。複数枚に渡る資料は、クリップ等で留めてください。)

	提出物	部数	備考
(1)	学位論文審査願 (所定様式)	2部	
(2)	論文 (参考論文も含む)	3部	<ul style="list-style-type: none"> この段階では製本されていないバインダーの状態でも良い。 論文目録に参考論文を記載する場合は、参考論文も提出すること。 副査が3名の場合は、1部追加して4部提出すること。
(3)	論文要旨 (4000字以内) (所定様式)	3部	<ul style="list-style-type: none"> 論文要旨の題目と氏名は12pt、要旨は11ptに統一すること。 字数は4,000字以内とする。外国語の場合は、A4用紙2枚から3枚とする。 論文題名が外国語の場合には、和訳を付記すること。 副査が3名の場合は、1部追加して4部提出すること。
(4)	履歴書 (所定様式)	2部	<ul style="list-style-type: none"> 氏名欄は必ず自署のこと。 履歴書作成年月日を記入すること。 学歴は高等学校入学以後の履歴につき年次順に入学・休学(ある場合)卒業(退学)を記入すること。 研究科及び専攻を明記すること。 職歴のない場合も、「なし」と記入すること。 (常勤の職について勤務先(役職等)を年次順に記載する。非常勤の職については、特に教育・研究に関するものの記載が望ましい。) 学位は修士以上の学位を記入すること。なお、学位には専攻分野の名称、授与機関等を付記すること。 資格には研究に関係するもののみ記入すること。
(5)	研究業績一覧表 (所定様式)	2部	<ul style="list-style-type: none"> 項目は著書・論文・研究発表(学会等での口頭発表)その他に分け、項目ごとにまとめて記入すること。 同一項目の中では、発行年の古い業績から新しい業績の順に記載すること。 著書はその発行所名、論文は掲載誌名、巻、号、掲載ページ等、研究発表は学会名、開催場所等を記入すること。 その他のものについてもこれに準ずること。 共著の場合、執筆担当箇所が明確にし、原則として本人を含めた共著者名をすべて記載すること。ただし、共著者多数の場合は、主な著者と本人を記載し、「他〇名」(著書)、「他〇名△番目」(論文)

			とすることも可。
(6)	論文目録 (所定様式)	2部	<ul style="list-style-type: none"> 論文題名が外国語の場合には、和訳を付記すること。 論文がまだ印刷公表されていない場合は、予定を記すこと。公表とは、当該博士の学位を授与した大学等の機関リポジトリ、当該大学ホームページ、国立国会図書館においてインターネットの利用により提供されている状態を言う。 記載例): 学位取得後、1年以内に同志社大学学術リポジトリにて公表予定。 参考論文が複数の場合は、列記すること。
(7)	写真 (所定の台紙に貼付)	1葉	縦6cm×横5cm。上半身脱帽、最近3カ月以内に撮影された写真を「学校法人同志社写真台紙」に貼付して提出すること。
(8)	電子データ一式	1部	(2)～(6)の電子データをDVD-RまたはCD-R(1枚)に格納のうえ提出すること。
※他研究者との共同研究のデータ等を博士論文の一部に利用する場合などにおいては、指導教員と相談のうえ、「同意書」などを取得するなど留意すること。			

※所定用紙については研究科のホームページからダウンロードすること。(7)の写真台紙については、学位論文題目届提出以降に京田辺キャンパス教務センターに取りに来ること。

※退学後に論文を提出する者は、学位論文審査願に審査料を添えて提出すること。納入方法については事前に事務室で指示を受けること。

<その他審査書類>

- ・学生証を持参の上、本人が提出のこと。代理人の提出は認めない。なお、提出日時に遅れた場合は一切受け付けない。
 - ・日付は事務室提出日とすること。
 - ・必ず指定されたフォーマットを使用し、書類を作成すること。
 - ・各書類において特に指定がない場合、字体をフォーマット内のものと統一すること。
 - ・提出書類はA4の片面印刷で出力し、提出すること。
 - ・博士論文・論文要旨・論文目録の題目が同じか確認すること。
 - ・論文のページ数と論文目録のページ数が同じか確認すること。
 - ・提出する電子媒体には指導教員名、名前、学生ID、提出日を記載すること。
2. 上記書類を京田辺キャンパス教務センター(スポーツ健康科学研究科担当)に提出すること。
 3. 書類はすべて黒インクで記入のこと。ただし、論文および論文要旨はこのかぎりではない。

【博士論文の構成例について】

博士論文(和文)の構成例	博士論文(英文)の構成例
i. タイトルページ	i. title page
ii. 要旨	ii. acknowledgment
iii. 目次	iii. table of contents
① 緒言	iv. lists of tables and figures
② 研究の背景・枠組み(研究小史)	v. abstract
③ 研究の目的、研究方略、全体の構成など	① Introduction
④ 実験 1 (目的、方法、結果、考察)	② Review of Literature
⑤ 実験 2 (目的、方法、結果、考察)	③ General Purpose and Methods (rationale)
⑥ 総合考察	④ Experiments (Purpose, Method, Results, Discussion)
⑦ 結論	⑤ General Discussion
⑧ 文献	⑥ Conclusion
⑨ 補足資料(実験データなど)	⑦ References
	⑧ Appendices

書式は研究計画書に準拠するが、審査用には 1.5 行スペース、完成版はシングルスペースを標準とする。

博士論文提出後に、論文審査委員による論文審査・検討委員会(予備審査)が行われ、論文査読主査から「審査査読結果」が報告される。査読結果は以下の通りとなり、①・②の場合は、博士論文公聴会・最終審査会が行われる。

- ①受諾
- ②修正後、再提出
- ③不可

<対応方法>

- ・②の場合:以下の要領で論文改訂版(最終版)と、審査会意見に関する回答書を提出する必要がある。
- ・①の場合:以下の要領で製本版の論文を提出のこと。
- ・③の場合:指導教員に相談のこと。

3) (D3) 論文改訂版(最終版)、論文審査・検討委員会および博士論文・研究科最終審査会意見に関する回答書

提出期限	2026年1月30日(金) 17時厳守
提出場所	京田辺キャンパス教務センター(スポーツ健康科学研究科担当) 於:成心館1階

1. 提出書類および部数(ホチキス留めは不要です。複数枚に渡る資料は、クリップ等で留めてください。)

	提出物	部数	備考
(1)	論文 (参考論文も含む)	3部	論文は製本されたもの(研究科の製本機を使用可)で提出のこと。 (バインダーや綴じ紐などの改変ができる仕様は不可) 2部は大学審査機関へ上程、1部は本研究科で保管。 ※改訂版(最終版)提出以降の差し替え・修正は一切認めない。 ※最終審査会での指摘事項等を修正し、審査委員の確認後に提出すること。 ・副査が3名の場合は、1部追加して4部提出すること。 ※最終審査合格後、最終製本分(自費)を後日提出いただきます。
(2)	論文の電子データ (PDF形式)	1部	DVD-RまたはCD-Rに格納すること。 フォーマットはPDF/A(ISO19005)とすること。 作成方法は http://library.doshisha.ac.jp/ir/guide/guide.html を参照すること。
(3)	論文要旨 (4000字以内) (所定様式)	3部	・論文要旨の題目と氏名は12pt、要旨は11ptに統一すること。 ・字数は4,000字以内とする。外国語の場合は、A4用紙2枚から3枚とする。 ・論文題名が外国語の場合には、和訳を付記すること。 ※改訂版(最終版)提出以降の差し替え・修正は一切認めない。 ・副査が3名の場合は、1部追加して4部提出すること。
(4)	論文審査・検討委員会および博士論文・研究科最終審査会意見に関する回答書	1部	
(5)	学位論文題目変更届(必要な者のみ)	1部	論文題目の変更が必要な者のみ (題目が記載された他の書類も再提出が必要となる)
(6)	その他 修正・再提出を指示された資料	適宜	

<その他>

- 学生証を持参の上、本人が提出のこと。代理人の提出は認めない。なお、提出日時に遅れた場合は一切受け付けない。
 - 日付は12月の博士論文提出日とすること。
 - 必ず指定されたフォーマットを使用し、書類を作成すること。
 - 各書類において特に指定がない場合、字体をフォーマット内のものと統一すること。
 - 提出書類はA4の片面印刷で出力し、提出すること。
 - 論文のページ数と論文目録のページ数が同じか確認すること。
 - 博士論文・論文要旨・論文目録の題目が同じか確認すること。
 - 提出する電子媒体には指導教員名、名前、学生ID、提出日を記載すること。
2. 上記書類を京田辺キャンパス教務センター(スポーツ健康科学研究科担当)に提出すること。
 3. 書類はすべて黒インクで記入のこと。ただし、論文および論文要旨はこのかぎりではない。

●審査会について

審査会での発表時間

審査会名	発表時間等
博士論文審査・検討委員会	主査・副査により実施
博士論文公聴会(公開)	公聴会:発表 30 分、質疑応答 20 分程度
最終審査会(非公開)	最終審査会:各審査委員会の指示による

- 博士論文審査・検討委員会後に、主査から審査査読結果報告がある。(必要に応じて追加の審査を行う場合がある)
- 博士論文公聴会・最終審査会の審査結果は、修了判定を含め3月上旬に学位授与に係る通知を郵送にて送付する。

趣旨

大学院設置基準第14条2「大学院は、学修の成果および学位論文に係る評価並びに修了の認定に当っては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする」にもとづいて、博士論文審査基準を以下のように定める。

主査と複数名の副査による論文査読、並びに公聴会における質疑を通じてその内容を審査する。博士学位論文の提出要件として、当該研究分野の査読付国際学会誌に1篇以上の筆頭著者としての研究論文公表と、国際学会における筆頭著者としての発表1回以上を求める。提出された博士論文や公聴会等における審査の基準は以下に定める。

1. 研究の目的の妥当性

研究テーマは新規性、独創性があり合理的であるか。

2. 情報収集能力

研究課題の背景や意義についての知識は専門家として十分なものか。

研究を理解するための知識の解説や先行研究についての説明が十分で、研究課題の設定に至るまでの論理が合理的であるか。

3. 研究方法の妥当性

研究計画や研究方法について十分な吟味と説明がなされ、研究課題の分析に最適な実験方法や調査方法であったか。

実験の再現性を保証するために、研究方法が詳細に記載されているか。

4. 問題分析能力

実験データや調査結果についての整理と解析が十分になされ、一貫した流れの中で記載されているか。

得られた結果に基づいた仮説や結論の展開が十分であるか。

結論に至る議論の展開に矛盾がなく、論理性が維持されているか。

5. 社会・学会等への貢献

広く社会や当該研究領域の発展に貢献する学術的価値が認められるか。

6. 将来性

当該研究において残された課題を把握し、今後の発展性を提示しているか。

7. 情報発信能力

論文や口頭発表は論理的に分かりやすく構成され、質問に対して的確に答えられていたか。

以上

<参考：学位授与決定後について>

スポーツ健康科学研究科委員会で修了判定を行った後、大学の最終意思決定会議である「研究科長会」で博士学位授与に係る審査が行われる。そこで博士学位の授与が認められた者は以下の義務が発生する。

I：博士論文要旨および論文審査結果要旨、総合試験結果要旨の公表（3ヶ月以内）

II：博士学位論文の全文公表（1年以内）

まず I に関しては、大学がリバイス時に提出のあった当該資料を同志社大学学術リポジトリにて公開する。つづいて II に関して以下を提出する必要がある。

<IIに係る「全文公開」対象者の提出物>

必要書類	部数	備考
(1) 博士学位論文の現物	3部	製本したもの(自費)
(2) 博士学位論文全文の電子データ	1個	DVD-RまたはCD-R
(3) 同志社大学博士論文のインターネット公開同意書 (様式所定)	1部	
(4) 学術リポジトリ内容記述シートの電子データ(様式所定)	1個	DVD-RまたはCD-R

(留意点)

- ・(1) の論文現物に関しては、1部を図書館、1部を学事課、1部を磐上館図書館で管理する。
- ・(2) の電子データに関しては、国立国会図書館で管理する。
- ・(4) の電子データの作成方法に関しては後述を参照のこと。

なお、IIの全文公表が以下のやむを得ない事情の場合については、「同志社大学博士論文のインターネット公開同意書」にやむを得ない理由を記載し、提出すること。

<やむを得ない事情の例>

- ・博士論文に立体形状による表現を含む場合
- ・著作権保護や個人情報保護に係る制約がある場合
- ・出版による公表又は公表を予定している場合
- ・特許を申請又は申請を予定している場合
- ・掲載ジャーナルからの制約がある場合
- ・その他、研究科教授会または研究科委員会が認めた場合

<IIに係る「やむを得ず非公開とする」対象者の提出物>

必要書類	部数	備考
(1) 博士学位論文の現物	3部	製本したもの(自費)

(2) 博士学位論文全文の電子データ	1個	DVD-RまたはCD-R
(3) 博士学位論文の要約の電子データ	1個	DVD-RまたはCD-R
(4) 同志社大学博士論文のインターネット公開同意書 (様式所定)	1部	
(5) 学術リポジトリ内容記述シートの電子データ	1個	DVD-RまたはCD-R

(留意点)

- ・全文公開を行わない者は同志社大学学術リポジトリ上にて「要約」のデータを公表するためデータで提出する。また、全文公開を行わない者であっても国立国会図書館へ全文データを送付するため、全文データも必要である。

●注意事項

1. 博士論文全文（電子データ）について

- ・論文の全内容を1つのファイルにまとめること。（学術リポジトリの公開や国立国会図書館からのデータ収集の関係上、提出後にファイルを分割する場合がある）また1枚のDVD-RまたはCD-Rに上記、電子データを格納すること。なお、提出されたDVD-RまたはCD-Rは返却しない。
- ・ファイル形式はテキスト情報付きのPDFとすること。ファイル名については、学位記番号をファイル名にして作成すること。
例) 甲001_全文.pdf 甲001_要約.pdf
- ・PDFファイルはAcrobat6.0以上で作成し、バージョンはPDF1.5以上とすること。
- ・フォーマットはPDF/A (ISO19005) とすること。
- ・外部情報源（外部フォント等）を参照していないこと。
- ・PDFファイルにはパスワードや暗号化、印刷制限等の設定をおこなわないこと。
- ・提出時の詳細は学術リポジトリホームページ [リポジトリへの登録手続き] を参照のこと。

2. 同志社大学博士論文のインターネット公開同意書について

- ・公開にあたっては、論文内に引用されている資料等について、インターネットの利用による公表を前提とした著作権処理をおこなうこと。
- ・「やむを得ない事由」がなくなった場合は、速やかに研究科事務室へ申し出のうえ、博士論文全文を公表すること。

3. 学術リポジトリ内容記述シートについて

- ・提出ファイルおよび書き方は、学術リポジトリホームページ [リポジトリへの登録手続き] を参照のこと。
- ・内容記述シートのファイル名は、学位記番号をファイル名にして作成すること。

例) 甲001_内容記述.xls

<学術リポジトリホームページ [リポジトリへの登録手続き] >

<https://doshisha.repo.nii.ac.jp/>



D-7. 研究遂行上の留意事項

研究を円滑・効果的に進めるために、研究科生は以下のことに十分に留意すること。とくに、様々な精神的悩みや困難等が生じた場合は、指導教員、研究科長、研究科専攻教務主任、研究科事務室、学生支援センター・カウンセリングセンター等に、早めに気軽に相談すること。

(研究室の決定・変更、指導教員以外による研究指導等)

- (1) 研究指導を受ける教員(指導教員)は、1年次の4月に正式決定する。
- (2) 研究領域や研究室の変更の希望が生じた場合は、所定用紙(京田辺キャンパス教務センタースポーツ健康科学研究科に設置)により申請すること。できるだけ研究科生の希望を考慮するが、適切な受入れ研究室(指導教員)が見つからない場合には変更が困難になることがある。
- (3) 研究遂行上、特別な理由で、指導教員以外からの指導を受ける必要が生じた場合は、指導教員と相談のうえ、他の教員の指導を願い出ることができる。

(研究テーマの設定)

- (4) 研究テーマの設定は、研究科生の希望を第一としながらも以下の条件を満たすものとなる。したがって、指導教員と十分に相談の上、早めに決定すること。最終的なテーマ設定時期の目安は、研究計画発表会(7月)の時期とし、予備的な実験などを進めておくことが望ましい。
 - ・在学期間内に学位論文としてまとめられる見通しのあるテーマ
 - ・指導教員の指導可能範囲内のテーマ。すなわち他の教員や他研究科、他大学での指導が主とならないもの。
 - ・研究室で進めている実験・調査に関する諸条件の範囲内の研究テーマ

(研究指導の内容と研究活動への参加)

- (5) 研究指導は学位論文の執筆・完成に必要な研究過程のすべてにわたって行われる。コースワーク科目(深論)、リサーチワーク科目(特殊研究I～VI)などとともに、研究室の教員や他の院生の研究への参加・協力をとおして、研究技法や考え方等を学ぶ機会とする。
- (6) 各種発表会の予定にあわせて研究計画を立てることが望ましい。
- (7) 各種発表会は、研究発表・質疑応答の練習の場であるとともに、他分野の研究や考え方について理解を深める絶好の機会でもあるので、積極的に討議に参加すること。

(各種補助金制度等への申請)

- (8) 文部科学省や日本学術振興会等の各種研究助成制度がある。日本学術振興会の博士後期課程特別研究員DC2にトライ(申請)することが望ましい(例年5月初旬)。

(大学院生国内学会発表奨励金制度について)(2024年度以前生のみ)

- (9) 大学院生が国内で開催される全国規模の学会(国際学会も含む)で筆頭発表者(口頭・ポスター)として発表する場合、国内学会発表奨励金を支給する。なお、支給回数は年度内に2回とする。奨励金の申請には指導教員の推薦を必要とする。

(参考) 博士学位論文提出パターン

3年次	在学中に論文を提出する場合		3年以上在学し、 翌学期から論文審査在籍料の適用を受ける場合		3年以上在学し、論文提出後に退学する場合	
	3月学位授与 (標準修了)	9月学位授与 (半年遅れ)	春学期適用 (半年遅れ)	秋学期適用 (1年遅れ)	春学期論文審査 (半年遅れ→半年遅及)	秋学期論文審査 (1年遅れ→半年遅及)
10月	・題目届提出				10月 ・題目届提出	
11月	・主査副査決定 ・論文提出要件の充足				11月	
12月	・論文提出 ・予備審査会				12月	
1月	・公聴会/最終審査会 ・リハバイス版提出				1月	
2月	・研究科委員会				2月	
3月	・研究科長会 ・課程修了・学位授与		・論文提出要件の充足 ・題目届提出 ・論文提出		3月	・論文提出要件の充足 ・論文提出 ・退学願提出 (秋学期末退学)
4月	(学費半額減免制度有※) ・題目届提出		(論文審査在籍料適用6万円) ・主査副査決定		4月	・主査副査決定 ・題目届提出
5月	・主査副査決定 ・論文提出要件の充足				5月	
6月	・論文提出 ・予備審査会		・予備審査会		6月	・予備審査会
7月	・公聴会/最終審査会 ・リハバイス版提出 ・研究科委員会		・公聴会/最終審査会 ・リハバイス版提出 ・研究科委員会		7月	・公聴会/最終審査会 ・リハバイス版提出 ・研究科委員会
8月					8月	
9月	・研究科長会 ・課程修了・学位授与		・研究科長会 ・課程修了・学位授与	・論文提出要件の充足 ・題目届提出 ・論文提出	9月	・研究科長会 ・課程修了・学位授与 (3月に遅及)
10月				(論文審査在籍料適用6万円) ・主査副査決定	10月	・論文提出要件の充足 ・論文提出 ・退学願提出 (春学期末退学) ・主査副査決定
11月					11月	
12月				・予備審査会	12月	・予備審査会
1月				・公聴会/最終審査会 ・リハバイス版提出	1月	・公聴会/最終審査会 ・リハバイス版提出
2月				・研究科委員会	2月	・研究科委員会
3月				・研究科長会 ・課程修了・学位授与	3月	・研究科長会 ・課程修了・学位授与 (9月に遅及)

論文審査在籍料の適用は2016年度以降生のみ対象

※長期履修生および授業科目を履修する場合は適用外

同志社大学スポーツ健康科学研究科

2020年1月22日制定

2020年2月19日改正

1. スポーツ健康科学研究科博士課程（後期課程）においては、博士学位論文の執筆・完成が最終目標となる。
2. 博士学位論文（後期課程）提出要件を満たして提出された博士学位論文に対して、学位授与方針で掲げた資質及び能力（【知識・技能】、【思考力・判断力・表現力】、【主体性・多様性・協働性】）の獲得状況を、博士論文審査・検討委員会、博士論文・研究科全体審査会、博士論文最終審査会（公聴会）を通して、執筆・完成の内容の評価により審査する。
3. 博士学位論文（後期課程）の評価では、ルーブリックを用いて学位授与方針で掲げた資質・能力の獲得状況を把握し、博士学位論文（後期課程）のスポーツ健康科学研究科博士論文審査基準への到達度を確認する。
4. ルーブリックは、スポーツ健康科学研究科委員会で定める。なお、ルーブリックにおける観点（評価項目）は【研究課題の設定】、【研究方法】、【研究結果】、【情報処理・統計解析】、【研究倫理】、【研究結果の評価】、【研究成果の発表】、【質疑応答】、【研究成果の公表】、【研究への取組み】の10項目とし、尺度（達成度のレベル）は4段階とする。

以 上

スポーツ健康科学研究科博士課程(後期課程) ルーブリック

2020年1月22日制定

	A	B	C	F	評価
研究課題の設定 * 研究の背景の理解 * 仮説の設定 * 目的の設定 (知識)	スポーツ健康科学を体系的に理解し、研究小史や文献reviewから研究の背景を的確かつ十分に把握し、その上で問題提起と研究の仮説を提示し、適切な目的の設定ができています	スポーツ健康科学を体系的に理解し、研究小史や文献reviewから研究の背景を的確に把握し、問題提起と研究の仮説を提示および適切な目的の設定ができていますが、若干不十分な部分がある	スポーツ健康科学を体系的に理解し、研究小史や文献reviewから研究の背景を的確に把握し、問題提起と研究の仮説を提示および適切な目的の設定ができていますが、不十分な部分がある	スポーツ健康科学を体系的に理解し、研究小史や文献reviewから研究の背景の把握が不十分であり、問題提起と研究の仮説を提示および目的の設定が不適切もしくはできていない	
研究方法 * 研究方法の設定 * 研究方法の習得 (技能)	研究課題達成に必要な具体的な研究方法を先行研究や最新の情報などに基づいて適切に設定して、再現性を保証できるように詳細に記載し、その手法(実験手技・調査手技など)を十分に習得して実行ができています	研究課題達成に必要な具体的な研究方法を先行研究や最新の情報などに基づいて設定して詳細に記載しており、その手法(実験手技・調査手技など)も習得して実行ができていますが、若干不十分な部分がある	研究課題達成に必要な具体的な研究方法を先行研究や最新の情報などに基づいて設定して詳細に記載しており、その手法(実験手技・調査手技など)も習得して実行ができていますが、不十分な部分がある	研究課題達成に必要な具体的な研究方法を先行研究や最新の情報などに基づいて設定して詳細に記載できておらず、その手法(実験手技・調査手技など)の習得も不十分である	
研究結果 * 研究結果の質 * 研究結果の量 (技能)	研究成果を実施した研究の順序に従って一貫した流れの中で提示し、必要に応じて適切な図表等を用いて明確に整理・解析して表記できており、その質および量ともに十分である	研究成果を実施した研究の順序に従って一貫した流れの中で提示し、必要に応じて適切な図表等を用いて整理・解析して概ね表記できているが、その質および量において若干不十分な部分がある	研究成果を実施した研究の順序に従って一貫した流れの中で提示し、必要に応じて図表等を用いて整理・解析して概ね表記できているが、その質および量において不十分な部分がある	研究成果を実施した研究の順序に従って一貫した流れの中で提示できておらず、図表等を用いた整理・解析も不足しており、その質および量において不十分である	
情報処理・統計解析 (技能)	情報処理や統計解析に必要な正しい知識を十分に習得・理解しており、研究課題の結果の情報処理に必要な解析方法や統計手法などを適切に選択して適用し、研究結果を的確に評価できている	情報処理や統計解析に必要な正しい知識を習得・理解し、研究課題に必要な統計手法などを適切に適用し、研究結果を的確に評価できているが、若干不十分な部分がある	情報処理や統計解析に必要な正しい知識を習得・理解し、研究課題に必要な統計手法などを運用して研究結果を評価できているが、不十分な部分がある	情報処理や統計解析が不十分である	
研究倫理 (知識)	スポーツ健康科学分野とその隣接領域の研究に必要な研究倫理を十分に理解して、適切な手続きと手段によって研究の遂行に必要な倫理審査等の認可を得て、研究を実施できている	スポーツ健康科学分野とその隣接領域の研究に必要な研究倫理を理解して、適切な手続きと手段によって研究の遂行に必要な倫理審査等の認可を得て、研究を実施できているが、若干不十分な部分がある	スポーツ健康科学分野とその隣接領域の研究に必要な研究倫理を理解して、適切な手続きと手段によって研究の遂行に必要な倫理審査等の認可を得て、研究を実施できているが、不十分な部分がある	研究倫理に対する理解が不十分で、倫理的に適切に研究を実施できていない	
研究結果の評価 (思考力) (判断力)	研究結果を既存の知識や過去の研究成果に基づいて論理的に解析し、矛盾のない論旨展開によって結論を導き、その学術的意義を適切に評価できているが、問題点や限界についても適切に説明できている	研究結果を既存の知識や過去の研究成果に基づいて論理的に解析し、矛盾のない論旨展開によって結論を導き、その学術的意義を適切に評価できているが、若干不十分な部分がある	研究結果を既存の知識や過去の研究成果に基づいて論理的に解析し、矛盾のない論旨展開によって結論を導き、その学術的意義を適切に評価できているが、不十分な部分がある	研究結果の解析に論理性を欠き、無理や不合理があり、矛盾なく結論を導けていない	
研究成果の発表 (思考力) (判断力) (表現力)	研究成果を研究科において定められた審査会(中間発表会・博士論文審査・検討委員会、博士論文・研究科全体審査会、博士論文最終審査会(公聴会))において発表し、その内容は十分に準備され、説得力のあるものである	研究成果を研究科において定められた審査会(中間発表会・博士論文審査・検討委員会、博士論文・研究科全体審査会、博士論文最終審査会(公聴会))において発表し、その内容は準備され、説得力のあるものであるが、若干の不十分な部分がある	研究成果を研究科において定められた審査会(中間発表会・博士論文審査・検討委員会、博士論文・研究科全体審査会、博士論文最終審査会(公聴会))において発表し、その内容は準備され、ある程度説得力のあるものであるが、不十分な部分がある	研究成果を研究科において定められた審査会(中間発表会・博士論文審査・検討委員会、博士論文・研究科全体審査会、博士論文最終審査会(公聴会))において発表していないもしくは発表したがその内容は不十分なものである	
質疑応答 (思考力) (判断力) (表現力)	研究成果を研究科において定められた審査会(中間発表会・博士論文審査・検討委員会、博士論文・研究科全体審査会、博士論文最終審査会(公聴会))における発表後の質疑応答において、多くの質問を的確に理解し、適切に回答できる	研究成果を研究科において定められた審査会(中間発表会・博士論文審査・検討委員会、博士論文・研究科全体審査会、博士論文最終審査会(公聴会))における発表後の質疑応答において、多くの質問を的確に理解し、適切に回答できているが、若干不十分な部分がある	研究成果を研究科において定められた審査会(中間発表会・博士論文審査・検討委員会、博士論文・研究科全体審査会、博士論文最終審査会(公聴会))における発表後の質疑応答において、質問を理解し、回答できているが、不十分な部分がある	研究成果を研究科において定められた審査会(中間発表会・博士論文審査・検討委員会、博士論文・研究科全体審査会、博士論文最終審査会(公聴会))における発表後の質疑応答において、質問に対する理解や回答は不十分である	
研究成果の公表 (思考力) (判断力) (表現力)	研究成果は、研究内容の発表に適合した国内外の学術集会で発表され、査読審査のある適切な価値の高い国際学術雑誌に公表されている	研究成果は、研究内容の発表に適合した国内外の学術集会で発表され、査読審査のある適切な国際学術雑誌に公表されている	研究成果は、研究内容の発表に適合した国内外の学術集会で発表され、査読審査のある国際学術雑誌に公表されている	研究成果は、研究内容の発表に適合した国内外の学術集会で発表されていないもしくは査読審査のある国際学術雑誌に公表されていない	
研究への取り組み * 積極性・発展性 (主体性) (協働性) (多様性)	研究に対して真摯かつ積極的に取り組み、必要に応じて他の研究者と協働して問題解決に当たることができ、さらには大学院前期課程や学部学生に対して適切な指導や協働ができる	研究に対して真摯かつ積極的に取り組み、必要に応じて他の研究者と協働して問題解決に当たることができ、さらには大学院前期課程や学部学生に対して適切な指導や協働ができているが、若干不十分な部分がある	研究に対して積極的に取り組み、必要に応じて他の研究者と協働して問題解決に当たり、大学院前期課程や学部学生に対して指導や協働をしているが、不十分な部分がある	研究に対して積極的に取り組む姿勢や他の研究者と協働する姿勢やが不十分であり、大学院前期課程や学部学生に対して指導や協働ができていない	

2025年度春学期修了のスケジュール

【後期課程】

	日時	内容	様式	提出先 等
後期課程	4月11日 (金) 17時締切	・学位論文題目届提出締切日 (博士論文提出希望者) <u>なお、過去に題目届を提出している場合でも、論文を提出する学期にあらためて提出すること。</u>	様式 5	教務 C
	4月下旬	・主査・副査の決定 ⇒ 4月研究科委員会議題		
	5月8日(木) 17時締切	・博士論文提出締切日		教務 C
	5月中旬～下旬	・主査・副査による学位論文の査読		
	5月中旬～下旬	・博士論文審査・検討審査会 (主査・副査により実施)		
	5月下旬～ 6月初旬	・主査から審査査読結果報告		
	6月11日 (水) or 6月25日 (水)	・博士論文公聴会(公開)・最終審査会(非公開) (有資格者:博士論文・審査検討委員会可の者) (発表30分、質疑応答20分程度) ※公聴会と最終審査会は別日でも構わない。		京田辺 キャンパス
	7月2日(水)	・博士論文改訂版(最終版) 提出締切日 審査会意見に関する回答書提出締切日 ※最終審査会での指摘事項等を修正し、審査委員の確認後に提出すること。		教務 C
	7月16日 (水)	・スポーツ健康科学研究科委員会 (修了判定)		
9月上旬	・同志社大学大学院研究科長会 (修了認定)			

スポーツ健康科学研究科 前期課程・後期課程

< 共通事項 >

1. 磐上館における注意事項	37
2. 教務関連事項について	38
・各種様式	43～
・2025 年度前期課程開講科目一覧	
・2025 年度後期課程開講科目一覧	

1. 磐上館における注意事項

- (1) 事務室(成心館:京田辺キャンパス教務センター(スポーツ健康科学研究科)、磐上館:スポーツ健康科学研究科事務室)
 - ① 学業に関する相談は成心館の京田辺キャンパス教務センターにて受付を行う。
 - ② 磐上館にて入試を執り行う場合は、磐上館の立ち入りを禁ずる場合がある。事前に研究生へは「大学院共同研究室(M)【BJ233】前掲示板」にて周知するので、注意しておくこと。
- (2) 掲示板
 - ① 磐上館の大学院共同研究室(M)【BJ233】前掲示板に、事務連絡のための各種掲示が貼り出されるので注意すること。また、大学付与のメールアドレスへの連絡も適宜行われるので、定期的に確認すること。
- (3) 大学院共同研究室(M)(BJ233)、大学院共同研究室(D-1)(BJ208)、大学院共同研究室(D-2)(BJ333)の使用(入室パスワードは別途連絡)
 - ① 共同研究室は、研究生相互の交流・啓発の場であるとともに各自の勉学の場でもあるので、整理整頓して使用する。図書その他の私物の持ち込みは必要最小限とする。
 - ② パソコンからの出力は、共同プリンターにLAN経由で出力できる。
 - ③ プリンターインクおよび用紙補充については、前期課程および後期課程それぞれにインク各色3本、A4用紙6ケースを上限に研究科より支給する。
- (4) 大学院共同利用室(BJ231)の使用
 - ① 共同利用室は、前期課程・後期課程共用のスペースとし、院生同士のディスカッションや談話等に利用することができる。
 - ② 共同利用の趣旨に鑑み、分別ある利用を心がけること。
- (5) コピー機の使用
コピー機は1階に設置しているので、当該機器を使用のこと。
- (6) 図書、文献等の利用
 - ① 書庫は磐上館2階にある。利用可能時間は平日9時～16時。利用希望者は、磐上館事務室にて学生証を提示すること。
 - ② 図書・文献等は、書庫の可動式書架にあるので、書庫内で利用すること。禁帯出図書は書庫から持ち出すことを禁じる。コピーが必要な場合には、指導教員の責任のもとにコピーした後、速やかに返却すること。
- (7) 実験室、機器等の利用
 - ① 実験室の使用については、必ず指導教員に相談のうえ、実験室・実習室管理者の指示にしたがうこと。(別表の磐上館館内図を参照のこと)
 - ② ヒトおよび動物を対象とする実験は、同志社大学で定められた研究倫理審査申請書を提出し許可を受けなければならないので、実験計画を策定したら速やかに指導教員に相談のこと。
 - ③ パソコン用プロジェクターは磐上館スポーツ健康科学研究科事務室で保管・管理している。使用する際はその旨申し出て、使用簿に記入の上、使用すること。
 - ④ 精密機器、電気・電子機器、測定機器類等を使う場合は、指導教員の指示に従い、取り扱いには十分注意して事故防止に努める。なお、所属していない実験室・実習室の機器を借用する場合は、必ず当該管理者に確認のこと。

⑤ 薬品類は取り扱いに十分に注意し、特に劇物・毒物等に関しては所定の場所に保管し、施錠が必要な場合はその都度施錠すること。薬品を取り扱う者は取り扱う量の多寡、劇物・毒物の有無に関わらず大学主催の講習会(薬物に関するもの、廃液に関するものなど)に必ず出席すること。出席しない者は薬品類の取り扱いを禁ずる。また、指定された薬品に関しては、保管および使用規約に基づいて指導教員の指導の下に、遅滞なくCRISへの登録を行うこと。

⑥ 実習室・実験室等での飲食は、原則として禁止する。

⑦ 実験室、機器類を使用した場合は、後始末や施錠等、元通りの状況に復帰しておくこと。

⑧ 実験室の備品はもちろん器具類も、原則として実験室から持ち出してはならない。持ち出す場合には、当該実験室の管理責任者である教員の許可を得たうえで、必要に応じて関係する教員に連絡して承認を得ること。消耗品は各研究室で負担し、実験室にあるものを無断で使用しないこと。

(8) 施錠、平日 22 時 30 分以降残留および休日利用について

① 19 時 00 分以降および休日は、玄関ドアは基本的にその都度施錠されるので、学生証認証により開閉すること。

② 22 時 30 分以降に磐上館を利用するときは、「構内残留届・入構願」に指導教員の署名・捺印をもらい、磐上館事務室に事前に提出すること。

③ 各施設を最後に出る者は、ポット類のコードを抜き、電気等の確認を十分に行うこと。

キャンパスの周辺地域は必ずしも安全ではないので、夜間の一人歩きおよび磐上館棟の防犯には十分に注意すること。

2. 教務関連事項について

■標準修業年限および在学年限について

標準修業年限とは、本学の教育課程を修了するために必要な期間のことを指します。

課程	標準修業年限
博士課程(前期課程)	2年
博士課程(後期課程)	3年

在学年限とは、本学に在学できる最長の期間であり、この年限を超えて在学することはできません。なお、休学した学期は在学期間に算入しません。

課程	在学年限
博士課程(前期課程)	4年
博士課程(後期課程)	6年

※博士課程(前期課程)における、長期履修研究科生(5年・6年申請者)はこの限りではありません。

■授業時間・試験時間

授業時間、試験時間については以下の通りです。ただし、学年暦で定める各学期末試験期間中以外で実施される試験の実施時間については各科目担当教員の指示に従って受験してください。

授業時間		試験時間	
1講時	9:00～10:30	1講時	9:20～10:30

2講時	10:45～12:15		2講時	11:00～12:10
3講時	13:10～14:40		3講時	13:25～14:35
4講時	14:55～16:25		4講時	15:05～16:15
5講時	16:40～18:10		5講時	16:45～17:55
6講時	18:25～19:55		6講時	18:25～19:35
7講時	20:10～21:40		7講時	20:05～21:15

■警報時の取扱い

暴風警報および特別警報が発表された場合、授業ならびに試験について休講の処置をとる場合があります。

※大雨警報は対象外となります。

なお、警報等当日の対応については本学ホームページ上で周知する場合がありますので当日は必ず確認をするようにしてください。なお、休講処置をとった場合の補講については各科目担当教員の指示に従ってください。

■身上変更について

在学期間中に住所・電話番号、姓名等に変更が生じた場合、至急以下の通り変更手続きを取ってください。

変更事由	手続方法
本人の現住所・電話番号の変更	学修支援システム DUET 上「住所変更」にて修正
姓名の変更	京田辺キャンパス教務センターに戸籍抄本とともに「改姓(名)届」を提出

■休学・退学について

諸事情により休学、退学を希望する場合、京田辺キャンパス教務センターに「休学願」、「退学願」を定められた期日までに提出する必要があります。各願の提出後、スポーツ健康科学研究科委員会の審議を経て正式に休学、退学が承認されます。休学期間は1年または半年とし、春学期時の休学申請時のみ1年間の休学を申請することができます。なお、一度承認された後は、原則休学期間の変更はできません。

申請にあたり不明な点がある場合は必ず余裕をもって事前に京田辺キャンパス教務センターまで問い合わせてください。

願の種類	提出締切
休学	各学期の授業開始日まで（春学期：4/4 秋学期：9/24）
退学	各学期終了日まで（春学期末退学の場合：9/20 年度末退学の場合：3/31）

■除籍について

次のいずれかに該当する者は、スポーツ健康科学研究科委員会の議を経て、除籍となり本学大学院生の身分を失います。

除籍事由	除籍日
学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者	当該学年末
在学年限を超える者	当該学期末
学費未納で履修科目の登録をしていない者	

■学費について

学費については、大学から郵送でお送りする振込用紙を使用し、指定の期日までに納入を行ってください。分割納入を希望する場合、本学ホームページ上から手続を行うことができます。

各学期の学費納入振込用紙の送付予定は次の通りです。

・春学期用(年額用を含む):4月中旬 秋学期用:10月中旬

休学申請を行った場合、別途休学費納入用の振込用紙を後日送付しますので、上記期間に送付される通常の学費納入振込用紙は使用しないで下さい。

■科目登録について

1. 科目登録に関する一般的注意

- ①登録は必ず定められた期間内に行ってください。
- ②科目ごとに配当年次が定められているので、『履修要項』の開講科目一覧表で確認してください。
- ③間違った科目コードで登録しないように注意してください。間違ったコードが別の科目のコードであった場合は、別の科目が登録されます。
- ④学修支援システムDUETを利用してWEBから登録手続きを行います。下記登録受付期間中なら何度でも変更・修正が可能です。自宅のパソコンからも手続きができます。詳細は DUET ログイン画面下部にリンクがある「履修手続マニュアル」を参照してください。(新入生は別紙「WEBによる履修科目登録利用上の注意について」も参照してください)
- ⑤春学期登録期間に秋学期科目も登録してください。
- ⑥他研究科科目を履修する場合、他研究科生の履修可否、各科目に定められた履修条件について『履修要項』でよく確認したうえで、登録してください。
- ⑦関西四大学大学院科目を履修する場合は、指導教員ならびに希望する授業担当者の了解を取った上で、春学期科目は3月中旬、秋学期科目は9月中旬に必要な書類を取りに来ること。

2. 登録日程(予定)

【WEB登録受付】

一般登録 4月8日(火) 10:00 ~4月9日(水) 17:00

【登録科目確認】

4月15日(火)~17日(木) DUET(WEB)で確認

【登録科目エラー修正受付】

4月15日(火)~17日(木) 方法は大学HPで確認すること。

- ・登録エラーがある場合は必ずこの期間中にエラー修正を行ってください。
- ・登録エラー修正を行った場合は、修正が正しく反映されているか確認してください。
- ・登録エラー修正期間中に修正を行わなかった場合、科目の削除または追加を強制的に行います。

【履修科目(登録確定)の確認】

4月22日(火)、23日(水) DUET(WEB)で確認

- ・この期間に確認した科目が最終的な登録科目ですので、適宜保存してください。

3. 免許・資格関係科目の登録について

新入生で免許・資格関係科目の登録を希望する場合は、必ず京田辺キャンパス教務センター(免許資格係窓口)で履修指導を受け登録科目を確認してください。

■履修中止について

授業開始後 1 ヶ月程度授業を受講し、望ましい評価が得られないと判断した科目については、履修の中止を 5 月中旬に DUET(WEB)から申請できます。対象は春学期開講科目のみです。変更・追加はできません。

なお、履修中止をした場合は、WEB 上で履修科目を参照し、履修中止の手続が正しく反映されているか確認してください。履修中止を行った場合は、この期間中に確認された科目が最終的な登録科目となりますので、適宜保存してください。

成績評価について

本学では GPA 制度で成績を評価しています。GPA 制度とは、各科目の成績評価を、以下の基準に従い、7 段階(A+, A, B+, B, C+, C, F)で評価し、各成績評価段階に 4.5～ 0.0 の評点(Grade Point)を付与して、1 単位あたりの評点平均値(Grade Point Average)を算出する制度です。

判定基準

評価	評点	判定内容
A ⁺	4.5	特に優れた成績を示した
A	4.0	A ⁺ に準じた成績を示した
B ⁺	3.5	優れた成績を示した
B	3.0	B ⁺ に準じた成績を示した
C ⁺	2.5	妥当と認められる成績を示した
C	2.0	C ⁺ に準じた成績を示した
F	0.0	合格と認められるに足る成績を示さなかった

以下の科目は、GPA 評価をしません。(PAS(合格)・FAL(不合格))で評価します。

論文、課題研究

・GPA 算出方法

A+～Fの段階で評価された全科目の評価を評点に換算して、1 単位あたりの評点平均値を学期毎および累積で算出します(算出方法は次のとおりです)。単位が設定されていない科目、A+～ F 以外の評価がついている科目は、GPA に算入されません。

$$GPA = \frac{(A^+ \times 4.5 + A \times 4.0 + B^+ \times 3.5 + B \times 3.0 + C^+ \times 2.5 + C \times 2.0 + F \times 0.0)}{(A^+ + A + B^+ + B + C^+ + C + F)}$$

(A～F)はA～Fの評価が付いた科目の単位数の合計

・F 評価の GPA 算入

GPA により評価された科目は、不合格の評価「F」がついた科目も、評点「0.0」として GPA 算出の対象となります。

ただし、F 評価だった科目を再履修してC以上の評価を得た(合格した)場合は、合格点が GPA 算出の対象となり、その科目の直近の不合格評価は GPA 算出の対象外となります。過去に 2 度以上 F 評価がついていた場合は、直近以外の F 評価は GPA 算出の対象となります。

・GPA 対象外科目

学部科目、自由科目、免許・資格登録科目(「M」をつけて登録した科目)、「合格/不合格」「認定」で成績評価される科目については GPA 対象外です(学部科目、自由科目、免許・資格登録科目は、修了必要単位数に算入されません)。

■クレーム・コミッティ制度について

科目担当者との直接的なコミュニケーションでは解決できない授業内容や授業方法に関する改善の要望がある場合は、京田辺キャンパス教務センター(スポーツ健康科学研究科担当)窓口に相談してください。研究科で相談の内容を確認後、必要に応じて各研究科等のクレーム・コミッティが事実関係を調査し、クレームに関わる一連の対応について回答します。

なお、いかなる場合であっても、相談者の学生 ID や氏名が科目担当者に明かされることはなく、また相談によって決して不利益を被ることはありません。

■事務室の取扱業務について

●京田辺キャンパス教務センター(スポーツ健康科学研究科担当) 於:成心館 1 階

- ・科目登録、履修の手続き
- ・試験について
- ・指導教員についての相談
- ・退学、休学、再入学、改姓名等の各種申請

●スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科事務室(磐上館1階)

- ・構内残留届・入構願
- ・SA・TA・RA について
- ・書庫の利用

※各種証明書は、成心館、理化学館1階に設置されている自動発行機から取得できます。(学生証、手数料が必要です。)

■連絡・情報提供について

掲示板を大学院共同研究室(M)【BJ233】前に設置しています。

連絡事項は、大学付与のメールアドレス、DUET(WEB)、掲示板により行います。定期的を確認するようにしてください。

(様式1)

スポーツ健康科学研究科 研究指導教員 希望申請書

年 月 日

スポーツ健康科学研究科 御中

【申請者】

課程 (いずれかに○)	前期課程 ・ 後期課程
学生 I D	
氏名	
連絡先 (携帯)	

【研究指導を希望する教員名】

第 1 希 望	
第 2 希 望	

※指導を希望する教員からすでに了解をもらっている場合、第 2 希望は空欄。

※未定の場合は、＜未定＞と記入してください。

スポーツ健康科学研究科 研究課題報告書

20 年 月 日

スポーツ健康科学研究科 御中

【申請者】

学 生 I D	
学 生 氏 名	
指 導 教 員	(印)

【研究課題】 (仮題で可)

--

スポーツ健康科学研究科
博士課程(前期課程)論文作成申請書

20 年 月 日

スポーツ健康科学研究科 御中

私は学位論文について

<input type="checkbox"/>	修士論文	<input type="checkbox"/>	課題研究論文
--------------------------	------	--------------------------	--------

(いずれかに○)

を作成いたします。

【申請者】

学生ID	
学生氏名 (自署)	
指導教員	(印)

学位論文題目届

20 年 月 日

スポーツ健康科学研究科 御中

スポーツ健康科学研究科博士課程 (課程) スポーツ健康科学専攻
年度 番

氏名(自署) _____

博士論文 修士論文 修士課題研究論文 (※いずれかをチェックすること)

【論文題目】

指導教員 _____ (印)

(注意)

1. 題目はあとで変更することのないよう、指導教員の下承を得てから記入すること。
2. コピーをとるので必ず黒ペンで記入または印字すること。
3. 修正テープは使用しないこと。間違いは訂正印で修正すること。

学位論文題目変更届

20 年 月 日

スポーツ健康科学研究科 御中

スポーツ健康科学研究科博士課程 (課程) スポーツ健康科学専攻
年度 番

氏名(自署) _____

博士論文 修士論文 修士課題研究論文 (※いずれかをチェックすること)

<変更前>

【変更後】

指導教員 _____ (印)

(注意)

1. 指導教員の下承を得てから記入すること。
2. コピーをとるので必ず黒ペンで記入または印字すること。
3. 修正テープは使用しないこと。間違いは訂正印で修正すること。

2025年度 スポーツ健康科学研究科 活動報告書

対象年度	
報告者氏名	_____ (ID: _____)
指導教員名	_____ (印)
研究課題(仮)	
研究活動実績 (掲載論文・著書、 学会発表、受賞 など)	<p>【国際学術誌または日本学術会議に登録されている国内学会の学術誌】</p> <p>【その他】</p>
その他の成果 (発明、ボランティア 活動、スポーツ競技 会戦績など)	

※国内外の学会において掲載された論文や受賞などは、学位授与式における研究科総代や大学院奨学金の選考等の参考となるので客観的資料があれば添付すること。

※提出締切日と場所

【今年度末修了予定者】前期課程：2月12日（木）、後期課程：1月30日（金）締切

【上記以外の者】 3月31日（火）締切

提出場所：京田辺キャンパス教務センター(スポーツ健康科学研究科窓口)

(参考)

年 月 日
Date : Year Month Day

同志社大学長
To President, Doshisha University

様

○○○研究科
Graduate School

○○○専攻
Department

氏名
Name

印
Seal

学位論文審査願
Application for Dissertation Examination

本学学位規程により博士（ ）の学位を受
領いたしたく、論文に論文目録、論文要旨および履歴書を
添えて提出いたしますので、ご審査をお願いいたします。

According to the Doshisha University Degree Regulations, I submit a Doctoral Dissertation
and attach an Inventory of Articles, Dissertation Abstract and Curriculum Vitae to apply for
review to complete a doctoral degree in ***.

(参考)

博士學位論文要旨
Abstract of Doctoral

論文題目: 論文題目を記載 (フォントサイズ: 12ポイント)
Title of Doctoral Dissertation (論文題目が外国語の場合は、全角()書きで和訳を附記すること)

Enter the title of the doctoral dissertation (font size: 12 points)
(If the title is in a language other than Japanese, please add a Japanese translation in full-width characters in parentheses)

氏名: ○○ ○○ (フォントサイズ: 12ポイント) (font size: 12 points)
Name

要旨:

Abstract

◆本文はここから書き始めること (フォントサイズ: 11ポイント)

・和文の場合は4000字以内

Beginning of text (font size: 11 points)

- If the text is written in Japanese, it within 4,000 characters.

スポーツ健康科学研究科（前期課程）

スポーツ健康科学専攻

科目区分	配当年次	科目コード	クラス	科目名	単位	2025年度 担当者	校地	期間 時間	他研究 科生	聴講生	
A群（必修科目）	健康科学分野	1～	31510001	001	健康科学研究Ⅰ	2	井澤 鉄也	田	春2	不可	不可
				002	健康科学研究Ⅰ		休講	田			
				003	健康科学研究Ⅰ		北條 達也	田			
				004	健康科学研究Ⅰ		石井 好二郎	田			
				005	健康科学研究Ⅰ		海老根 直之	田			
		31510002	001	健康科学研究Ⅱ	井澤 鉄也	田	2	秋2	不可	不可	
			002	健康科学研究Ⅱ	柳田 昌彦	田					
			003	健康科学研究Ⅱ	北條 達也	田					
			004	健康科学研究Ⅱ	石井 好二郎	田					
			005	健康科学研究Ⅱ	海老根 直之	田					
	2～	31510003	001	健康科学研究Ⅲ	井澤 鉄也	2	春2	不可	不可		
			002	健康科学研究Ⅲ	休講					田	
			003	健康科学研究Ⅲ	北條 達也					田	
			004	健康科学研究Ⅲ	石井 好二郎					田	
			005	健康科学研究Ⅲ	海老根 直之					田	
		31510004	001	健康科学研究Ⅳ	井澤 鉄也	2	秋2	不可	不可		
			002	健康科学研究Ⅳ	柳田 昌彦					田	
			003	健康科学研究Ⅳ	北條 達也					田	
			004	健康科学研究Ⅳ	石井 好二郎					田	
			005	健康科学研究Ⅳ	海老根 直之					田	
トレーニング科学分野	1～	31510011	002	トレーニング科学研究Ⅰ	2	春2	不可	不可			
			003	トレーニング科学研究Ⅰ					藤澤 義彦	田	
			004	トレーニング科学研究Ⅰ					田附 俊一	田	
			005	トレーニング科学研究Ⅰ					竹田 正樹	田	
			006	トレーニング科学研究Ⅰ					石倉 忠夫	田	
			007	トレーニング科学研究Ⅰ					中村 康雄	田	
			008	トレーニング科学研究Ⅰ					福岡 義之	田	
			009	トレーニング科学研究Ⅰ					上林 清孝	田	
			002	トレーニング科学研究Ⅱ					若原 卓	田	
	31510012	002	トレーニング科学研究Ⅱ	藤澤 義彦	2	秋2	不可	不可			
		003	トレーニング科学研究Ⅱ	田附 俊一					田		
		004	トレーニング科学研究Ⅱ	竹田 正樹					田		
		005	トレーニング科学研究Ⅱ	石倉 忠夫					田		
		006	トレーニング科学研究Ⅱ	中村 康雄					田		
		007	トレーニング科学研究Ⅱ	福岡 義之					田		
		008	トレーニング科学研究Ⅱ	上林 清孝					田		
		009	トレーニング科学研究Ⅱ	若原 卓					田		
		2～	31510013	002					トレーニング科学研究Ⅲ	2	春2
003	トレーニング科学研究Ⅲ			藤澤 義彦	田						
004	トレーニング科学研究Ⅲ			田附 俊一	田						
005	トレーニング科学研究Ⅲ			竹田 正樹	田						
006	トレーニング科学研究Ⅲ			石倉 忠夫	田						
007	トレーニング科学研究Ⅲ			中村 康雄	田						
008	トレーニング科学研究Ⅲ			福岡 義之	田						
009	トレーニング科学研究Ⅲ			上林 清孝	田						
002	トレーニング科学研究Ⅳ			若原 卓	田						
31510014	002	トレーニング科学研究Ⅳ	藤澤 義彦	2	秋2	不可	不可				
	003	トレーニング科学研究Ⅳ	田附 俊一					田			
	004	トレーニング科学研究Ⅳ	竹田 正樹					田			
	005	トレーニング科学研究Ⅳ	石倉 忠夫					田			
	006	トレーニング科学研究Ⅳ	中村 康雄					田			
	007	トレーニング科学研究Ⅳ	福岡 義之					田			
	008	トレーニング科学研究Ⅳ	上林 清孝					田			
	009	トレーニング科学研究Ⅳ	若原 卓					田			
	スポーツ・マネジメント分野	1～	31510021					001	スポーツ・マネジメント研究Ⅰ	2	春2
003				スポーツ・マネジメント研究Ⅰ	休講	田					
004				スポーツ・マネジメント研究Ⅰ	二宮 浩彰	田					
005				スポーツ・マネジメント研究Ⅰ	庄子 博人	田					
005				スポーツ・マネジメント研究Ⅰ	岩田 昌太郎	田					
31510022		001	スポーツ・マネジメント研究Ⅱ	休講	田	2	秋2	不可	不可		
		003	スポーツ・マネジメント研究Ⅱ	二宮 浩彰	田						
		004	スポーツ・マネジメント研究Ⅱ	庄子 博人	田						
		005	スポーツ・マネジメント研究Ⅱ	岩田 昌太郎	田						
		005	スポーツ・マネジメント研究Ⅱ	岩田 昌太郎	田						
2～		31510023	001	スポーツ・マネジメント研究Ⅲ	2	春2	不可	不可			
			003	スポーツ・マネジメント研究Ⅲ					休講	田	
	004		スポーツ・マネジメント研究Ⅲ	二宮 浩彰					田		
	005		スポーツ・マネジメント研究Ⅲ	庄子 博人					田		
	005		スポーツ・マネジメント研究Ⅲ	岩田 昌太郎					田		
31510024	001	スポーツ・マネジメント研究Ⅳ	休講	田	2	秋2	不可	不可			
	003	スポーツ・マネジメント研究Ⅳ	二宮 浩彰	田							
	004	スポーツ・マネジメント研究Ⅳ	庄子 博人	田							
	005	スポーツ・マネジメント研究Ⅳ	岩田 昌太郎	田							
	005	スポーツ・マネジメント研究Ⅳ	岩田 昌太郎	田							

科目区分	配当年次	科目コード	クラス	科目名	単位	2025年度 担当者	校地	期間 時間	他研究 科生	聴講生	
B群 (選択科目)	健康科学分野	1～	31511001		スポーツ医学特講	2	北條 達也	田	春2	可	可
		1～	31511002		スポーツ医学実験演習	2	北條 達也	田	秋集中	不可	不可
		1～	31511003		スポーツ生化学特講	2	井澤 鉄也	田	春集中	可	可
		1～	31511004		スポーツ生化学実験演習	2	井澤 鉄也	田	秋集中	不可	不可
		1～	31511005		スポーツ栄養学特講	2	海老根 直之	田	春2	可	可
		1～	31511006		スポーツ栄養学実験演習	2	海老根 直之	田	秋集中	不可	不可
		1～	31511007		公衆衛生学特講	2	柳田 昌彦	田	秋2	可	可
		1～	31511008		公衆衛生学フィールドワーク演習	2	柳田 昌彦	田	秋2	不可	不可
		1～	31511009		運動処方論特講	2	石井 好二郎	田	春集中	可	可
		1～	31511010		運動処方論実験演習	2	石井 好二郎	田	秋集中	不可	不可
		1～	31511046		スポーツ分子生物学特講	2	高倉 久志	田	春2	可	可
	トレーニング科学分野				スポーツ健康科学特論特別講義A		休講				
		1～	31511011		スポーツ心理学特講	2	石倉 忠夫	田	春2	可	可
		1～	31511012		スポーツ心理学実験実習	1	石倉 忠夫	田	秋2	不可	不可
		1～	31511015		スポーツ生理学特講	2	竹田 正樹	田	春2	可	可
		1～	31511016		スポーツ生理学実験実習	1	竹田 正樹	田	秋集中	不可	不可
		1～	31511021		スポーツ・バイオメカニクス特講	2	中村 康雄	田	春2	可	可
		1～	31511022		スポーツ・バイオメカニクス実験実習	1	中村 康雄	田	秋2	不可	不可
		1～	31511023		スポーツ測定方法論特講	2	藤澤 義彦	田	春集中	可	可
		1～	31511024		スポーツ測定方法論実験実習	1	藤澤 義彦	田	秋集中	不可	不可
		1～	31511035		スポーツ運動学特講	2	田附 俊一	田	春2	可	可
		1～	31511036		スポーツ運動学実験実習	1	田附 俊一	田	秋集中	不可	不可
		1～	31511037		スポーツ・トレーニング・コーチング論特講	2	松倉 啓太	田	春2	可	可
					スポーツ・トレーニング・コーチング論実験実習		休講				
		1～	31511039		環境生理学特講	2	福岡 義之	田	春集中	可	可
		1～	31511040		環境生理学実験実習	1	福岡 義之	田	秋集中	不可	不可
		1～	31511041		身体運動制御論特講	2	上林 清孝	田	春2	可	可
		1～	31511042		身体運動制御論実験実習	1	上林 清孝	田	秋集中	不可	不可
		1～	31511043		スポーツ生体ダイナミクス特講	2	若原 卓	田	春2	可	可
		1～	31511045		スポーツ生体ダイナミクス実験実習	1	若原 卓	田	秋集中	不可	不可
		1～	31511047		スポーツ身体動作学特講	2	新井 彩	田	春2	可	可
					スポーツ健康科学特論特別講義B		休講				
	マネジメント分野 スポーツ・	1～	31511025		スポーツ政策論特講	2	休講	田	春2	可	可
		1～	31511026		スポーツ政策論フィールドワーク演習	2	休講	田	秋2	可	可
		1～	31511027		スポーツ・マーケティング・リサーチ特講	2	二宮 浩彰	田	春2	可	可
		1～	31511028		スポーツ・マーケティング・リサーチ演習	2	二宮 浩彰	田	秋集中	不可	不可
					アダプテッド・スポーツ社会環境特講		休講				
					アダプテッド・スポーツ社会環境フィールドワーク演習		休講				
		1～	31511044		スポーツビジネス論特講	2	庄子 博人	田	春2	可	可
		1～	31511048		スポーツビジネス論演習	2	庄子 博人	田	秋2	不可	不可
		1～	31511049		保健体育科教育学特講	2	岩田 昌太郎	田	春2	可	可
		1～	31512201		スポーツ健康科学特論特別講義C	2	有吉 忠一	田	秋2	可	可
1～	31512202		スポーツ健康科学特論特別講義C	2	佐々木 浩雄	田	秋2	可	可		
C群	他領域			他研究科設置科目							
		2	31510099	論文							
		2	31511099	課題研究							

修了要件および履修方法は、履修要項を確認すること。

スポーツ健康科学研究科（後期課程）

スポーツ健康科学専攻

科目区分	配当年次	科目	クラス	科目名	単位	2025年度担当者	校地	期間時間	他研究科生	聴講生	
		41500011		スポーツ医学深論	2	北條 達也	田	秋集中	不可	不可	
		41500012		スポーツ生化学深論	2	井澤 鉄也	田	春集中	不可	不可	
		41500013		スポーツ栄養学深論	2	海老根 直之	田	秋集中	不可	不可	
		41500014		公衆衛生学深論	2	柳田 昌彦	田	秋集中	不可	不可	
		41500015		運動処方深論	2	石井 好二郎	田	春集中	不可	不可	
		41500016		スポーツ心理学深論	2	石倉 忠夫	田	春集中	不可	不可	
		41500017		スポーツ運動学深論	2	田附 俊一	田	秋集中	不可	不可	
		41500018		スポーツ生理学深論	2	竹田 正樹	田	秋集中	不可	不可	
		41500019		スポーツ・バイオメカニクス深論	2	中村 康雄	田	春集中	不可	不可	
		41500020		スポーツ測定方法深論	2	藤澤 義彦	田	春集中	不可	不可	
		41500021		環境生理学深論	2	福岡 義之	田	春集中	不可	不可	
		41500022		スポーツ政策深論	2	休講	田	春集中	不可	不可	
		41500023		スポーツ・マーケティング・リサーチ深論	2	二宮 浩彰	田	秋集中	不可	不可	
演習科目		41500101	001	スポーツ健康科学特殊演習	2	藤澤 義彦	田	秋集中	不可	不可	
			002	スポーツ健康科学特殊演習		井澤 鉄也					
			003	スポーツ健康科学特殊演習		田附 俊一					
			004	スポーツ健康科学特殊演習		柳田 昌彦					
			005	スポーツ健康科学特殊演習		北條 達也					
			006	スポーツ健康科学特殊演習		福岡 義之					
			007	スポーツ健康科学特殊演習		石井 好二郎					
			008	スポーツ健康科学特殊演習		二宮 浩彰					
			009	スポーツ健康科学特殊演習		石倉 忠夫					
			010	スポーツ健康科学特殊演習		中村 康雄					
			011	スポーツ健康科学特殊演習		竹田 正樹					
			012	スポーツ健康科学特殊演習		休講					
			013	スポーツ健康科学特殊演習		海老根 直之					
研究指導科目	1~	41501001	001	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ	2	藤澤 義彦	田	春集中	不可	不可	
			002	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ		井澤 鉄也					
			003	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ		田附 俊一					
			004	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ		休講					
			005	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ		北條 達也					
			006	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ		福岡 義之					
			007	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ		石井 好二郎					
			008	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ		二宮 浩彰					
			009	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ		石倉 忠夫					
			010	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ		中村 康雄					
			011	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ		竹田 正樹					
			012	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ		休講					
			013	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ		海老根 直之					
			41501002	001	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ	2	藤澤 義彦	田	秋集中	不可	不可
				002	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ		井澤 鉄也				
				003	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ		田附 俊一				
				004	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ		柳田 昌彦				
				005	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ		北條 達也				
				006	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ		福岡 義之				
				007	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ		石井 好二郎				
				008	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ		二宮 浩彰				
				009	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ		石倉 忠夫				
				010	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ		中村 康雄				
				011	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ		竹田 正樹				
				012	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ		休講				
				013	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ		海老根 直之				

科目区分	配当年次	科目	クラス	科目名	単位	2025年度担当者	校地	期間時間	他研究科生	聴講生
研究指導科目	2~	41501003	001	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ	2	藤澤 義彦	田	春集中	不可	不可
			002	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ		井澤 鉄也				
			003	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ		田附 俊一				
			004	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ		休講				
			005	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ		北條 達也				
			006	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ		福岡 義之				
			007	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ		石井 好二郎				
			008	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ		二宮 浩彰				
			009	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ		石倉 忠夫				
			010	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ		中村 康雄				
			011	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ		竹田 正樹				
			012	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ		休講				
			013	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ		海老根 直之				
		41501004	001	スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ	2	藤澤 義彦	田	秋集中	不可	不可
			002	スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ		井澤 鉄也				
			003	スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ		田附 俊一				
			004	スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ		柳田 昌彦				
			005	スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ		北條 達也				
			006	スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ		福岡 義之				
			007	スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ		石井 好二郎				
			008	スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ		二宮 浩彰				
			009	スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ		石倉 忠夫				
			010	スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ		中村 康雄				
			011	スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ		竹田 正樹				
	012		スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ	休講						
	013		スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ	海老根 直之						
	3~	41501005	001	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ	2	藤澤 義彦	田	春集中	不可	不可
			002	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ		井澤 鉄也				
			003	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ		田附 俊一				
			004	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ		休講				
			005	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ		北條 達也				
			006	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ		福岡 義之				
			007	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ		石井 好二郎				
			008	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ		二宮 浩彰				
			009	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ		石倉 忠夫				
			010	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ		中村 康雄				
			011	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ		竹田 正樹				
			012	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ		休講				
			013	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ		海老根 直之				
	3~	41501006	001	スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ	2	藤澤 義彦	田	秋集中	不可	不可
			002	スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ		井澤 鉄也				
			003	スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ		田附 俊一				
004			スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ	柳田 昌彦						
005			スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ	北條 達也						
006			スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ	福岡 義之						
007			スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ	石井 好二郎						
008			スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ	二宮 浩彰						
009			スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ	石倉 忠夫						
010			スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ	中村 康雄						
011			スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ	竹田 正樹						
012			スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ	休講						
013			スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ	海老根 直之						
3	41500099		論文	-						

修了要件および履修方法は、履修要項を確認すること。

2025年度 スポーツ健康科学研究科 時間割表

【春学期】健康科学分野…緑字 トレーニング分野…黒字 スポーツ・マネジメント分野…青字 大学院後期課程科目…赤字

1	2	3	4	5	6	7
月	スポーツ生体ダイナミクス特講/若原	スポーツ生体ダイナミクス特講/中村	スポーツ・バイオメカニクス特講/中村	スポーツ医学特講/北條 スポーツ栄養学特講/海老根		
火	スポーツ生理学特講/竹田 保健体育科教育特講/若田	スポーツ身体動作特講/新井 スポーツヒジネス論特講/庄子		＜演習＞ 健康科学研究Ⅰ/井澤、柳田、北條、石井、海老根 トレーニング科学研究Ⅰ/藤澤、田附、竹田、石倉、中村、福岡、上林、若原 スポーツ・マネジメント研究Ⅰ/二宮、庄子、岩田	＜演習＞ 健康科学研究Ⅲ/井澤、柳田、北條、石井、海老根 トレーニング科学研究Ⅲ/藤澤、田附、竹田、石倉、中村、福岡、上林、若原 スポーツ・マネジメント研究Ⅲ/二宮、庄子、岩田	
水	スポーツ・トレーニング・コーチング論特講/松倉 スポーツ・マーケティング論特講/二宮					
木		スポーツ運動学特講/田附 スポーツ分子生物学特講/高倉				
金			身体運動制御論特講/上林	スポーツ心理学特講/石倉		
土			【集中】 スポーツ衛生化学特講/井澤 運動処方論特講/石井 スポーツ測定方法論特講/藤澤 環境生理学特講/福岡 スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ/藤澤、井澤、田附、柳田、北條、福岡、石井、二宮、石倉、中村、竹田、海老根 スポーツ衛生化学深論/井澤 運動処方深論/石井 スポーツ心理学深論/石倉 スポーツ・バイオメカニクス深論/中村 スポーツ測定方法深論/藤澤 環境生理学深論/福岡			

【秋学期】健康科学分野…緑字 トレーニング分野…黒字 スポーツ・マネジメント分野…青字 大学院後期課程科目…赤字

1	2	3	4	5	6	7
月			スポーツ・バイオメカニクス実験実習/中村			
火	スポーツヒジネス論演習/庄子			＜演習＞ 健康科学研究Ⅱ/井澤、柳田、北條、石井、海老根 トレーニング科学研究Ⅱ/藤澤、田附、竹田、石倉、中村、福岡、上林、若原 スポーツ・マネジメント研究Ⅱ/二宮、庄子、岩田	＜演習＞ 健康科学研究Ⅳ/井澤、柳田、北條、石井、海老根 トレーニング科学研究Ⅳ/藤澤、田附、竹田、石倉、中村、福岡、上林、若原 スポーツ・マネジメント研究Ⅳ/二宮、庄子、岩田	
水	公衆衛生学特講/柳田	公衆衛生学フィールドワーク演習/柳田	スポーツ健康科学特論特別講義C/有吉			
木			スポーツ健康科学特論特別講義C/佐々木			
金			スポーツ心理学実験実習/石倉			
土			【集中】 スポーツ医学実験演習/北條 スポーツ衛生化学実験演習/井澤 スポーツ栄養学実験演習/海老根 運動処方論実験演習/石井 スポーツ測定方法論実験実習/藤澤 環境生理学実験実習/福岡 身体運動制御論実験実習/上林 スポーツ生理学実験実習/竹田 スポーツ運動学実験実習/田附 スポーツ生体ダイナミクス実験実習/若原 スポーツ・マーケティング・リサーチ演習/二宮 スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ/藤澤、井澤、田附、柳田、北條、福岡、石井、二宮、石倉、中村、竹田、海老根 スポーツ健康科学特殊演習/藤澤、井澤、田附、柳田、北條、福岡、石井、二宮、石倉、中村、竹田、海老根 スポーツ医学深論/北條 スポーツ栄養学深論/海老根 公衆衛生学深論/柳田 スポーツ運動学深論/田附 スポーツ生理学深論/竹田 スポーツ・マーケティング・リサーチ深論/二宮			

Graduate School of
Health and Sports Science



Doshisha University